

斐伊川水系上流域
河川整備計画

付 属 資 料

平成25年10月

島 根 県

目次

	ページ
1. 新しい河川整備の計画制度について	付・1
(1) 河川法の改正	付・1
(2) 河川整備の理念	付・2
(3) 河川整備計画の位置付け	付・2
(4) 斐伊川水系上流域管理区間	付・3
2. 流域の自然	付・5
(1) 地形・地質	付・5
(2) 林相	付・8
(3) 気象	付・9
(4) 動植物	付・10
3. 流域の人口及び社会経済	付・14
(1) 人口の推移	付・14
(2) 産業構造の変遷	付・15
4. 流域の景観及び観光	付・16
(1) 景観	付・16
(2) 観光	付・17
5. 流域の文化財と歴史	付・18
(1) 文化財	付・18
(2) 遺跡	付・20
(3) 歴史	付・24
(4) 伝統芸能・風習	付・27
(5) 伝説・神話	付・28
6. 地名・河川名の由来	付・29
7. 治水の概要	付・31
(1) 治水計画の概要	付・31
(2) 被災写真	付・33
(3) 河川事業の状況	付・34
8. 利水の概要	付・35
(1) 水利用	付・35
(2) 主要地点の流況	付・39
9. 環境の概要	付・40
(1) 河川の整備状況	付・40
(2) 水質の状況	付・47
10. 斐伊川の河川計画の経緯	付・52
11. 「水辺の楽校」プロジェクト	付・54
(1) 斐伊川（横田）	付・54
(2) 斐伊川（三成）	付・54
12. 川とのふれあい活動	付・55

1. 新しい河川整備の計画制度について

(1) 河川法の改正

わが国の河川制度は、明治 29 年に旧河川法が制定されて以来、幾たびかの改正を経て現在に至っている。特に、昭和 39 年に制定された新河川法では、水系一貫管理制度の導入など、治水・利水の体系的な制度の整備が図られ、今日の河川行政の模範として役割を担ってきた。

しかしながら、その後の社会的経済変化により、近年、河川制度をとりまく状況は大きく変化し、現在では河川は治水・利水の役割を担うだけでなく、潤いのある水辺空間や多様な生物の生息・生育環境として捉えられ、また、地域の風土と文化を形成する重要な要素としてその個性を活かした川づくりが求められるようになってきた。さらに、社会経済・生活様式の高度化に伴って、渇水による社会的影響が著しくなるなど、円滑な渇水調整の推進などが課題となっている。

【基本認識】

- ・ かつて川が人にとって身近だったように人と川の関わりの再構築。
- ・ 洪水や渇水という異常時の河川を対象とした従来の河川行政から、平常時の河川も視野に入れた「川の 365 日」の河川行政に転換。
- ・ 健全な水環境系の確保、生物の多様な生息・生育環境の確保、良好な河川景観と水辺空間の形成等自然と調和した健康な暮らしと健全な環境の創出。
- ・ わかりやすい計画と指標・目標の作成、環境の観点からの河川整備の計画の充実。
- ・ 地域との連携の強化及び体制の整備。

こうした基本認識のもとに制度化が図られ、平成 9 年 6 月に河川法の改正（平成 9 年 12 月施行）がなされている。河川法改正の流れの概要図を図 1-1 に示す。

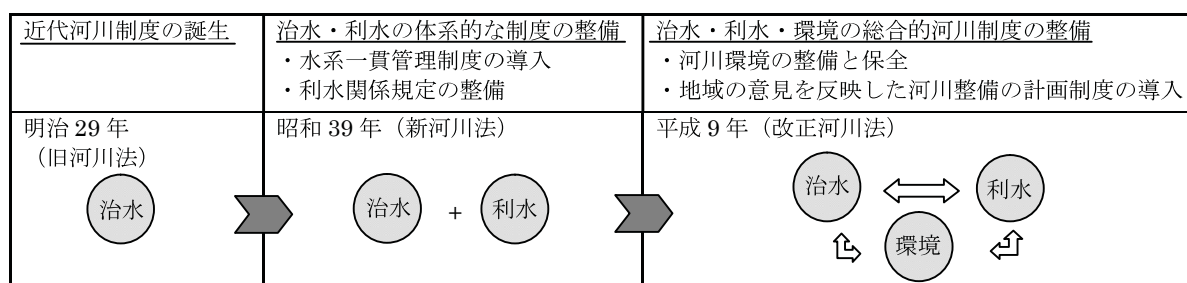


図 1-1 河川法改正の流れ

【改正の趣旨】

改正河川法（平成 9 年）において、河川法第一条で新河川法にはなかった「河川環境の整備と保全」が挙げられ、河川管理の責務の一つとして新たに位置付けられた。これにより河川法の目的に「河川環境」が明記され、現在の河川事業に求められる環境関連のことが実態に即したものとなることを目指している。また、近年重視されている河川内の生態系の保全、河川の水と緑の環境、河川空間のアメニティといった要素を捉えた川づくりにも対応できるよう目指している。ただし、「河川環境の整備と保全」は河川の総合的管理の一要素として追加されたものであり、河川環境だけを特別に重視すべきという趣旨ではない。河川の管理は、治水・利水・環境の総合的な河川管理が確保されるよう適正に行わなければならない。実際には、環境と治水・利水の目的が相反する場合も想定されるが、その際にはそれぞれの目的を対立的に捉えるのではなく、総合的な河川管理が行えるよう個々の河川が持つ河川環境の状況や治水安全度等を踏まえ、地域の意向を反映しつつそれぞれの場合に応じた判断が必要である。

(2) 河川整備の理念

川づくりは、流域の視点に立って人との関わりの再構築を図りながら、災害に強く、渇水にも安全で平常時を見据えた川づくりを行い、そこに住む人々の地域づくりを支援することが必要である。また、整備にあたっては自然環境の保全に努め、水と緑の河川空間を提供する河川環境の創造を図っていく必要がある。そこで「安全で自然豊かなふるさとを目指して」をスローガンに掲げて、治水・利水・環境を総合的に捉えた河川整備を目指し、「住みよいまち」・「住みたいまち」の実現に寄与する川づくりに取組んでいく。また、地域住民との密接な連携を図りながら河川整備に対するニーズに的確に応え、河川の特性と地域の風土・文化等の実情に応じた河川整備を推進することとする。

(3) 河川整備計画の位置付け

河川整備基本方針（河川法第 16 条）は洪水、高潮等による災害を防止する治水計画、渇水の解消に努め安定的な水道用水、かんがい用水等を供給する利水計画及び自然豊かな河川の空間利用と保全を目指した環境計画について、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を長期的な計画として定めたものである。

また、河川整備計画（河川法第 16 条の 2）の位置付けとしては、河川整備基本方針に沿った上で今後 20～30 年後を目途とした整備内容を定めたものであり、他の関連計画等との整合を図りながら策定・推進するとともに、具体の「川づくり」の姿を地域に提示しつつ地域の意見を反映しながら策定するものである。

本計画は現時点の課題や河道状況等に基づき策定されたものであり、河道状況や社会環境の変化等に応じ適宜見直しを行うものとする。

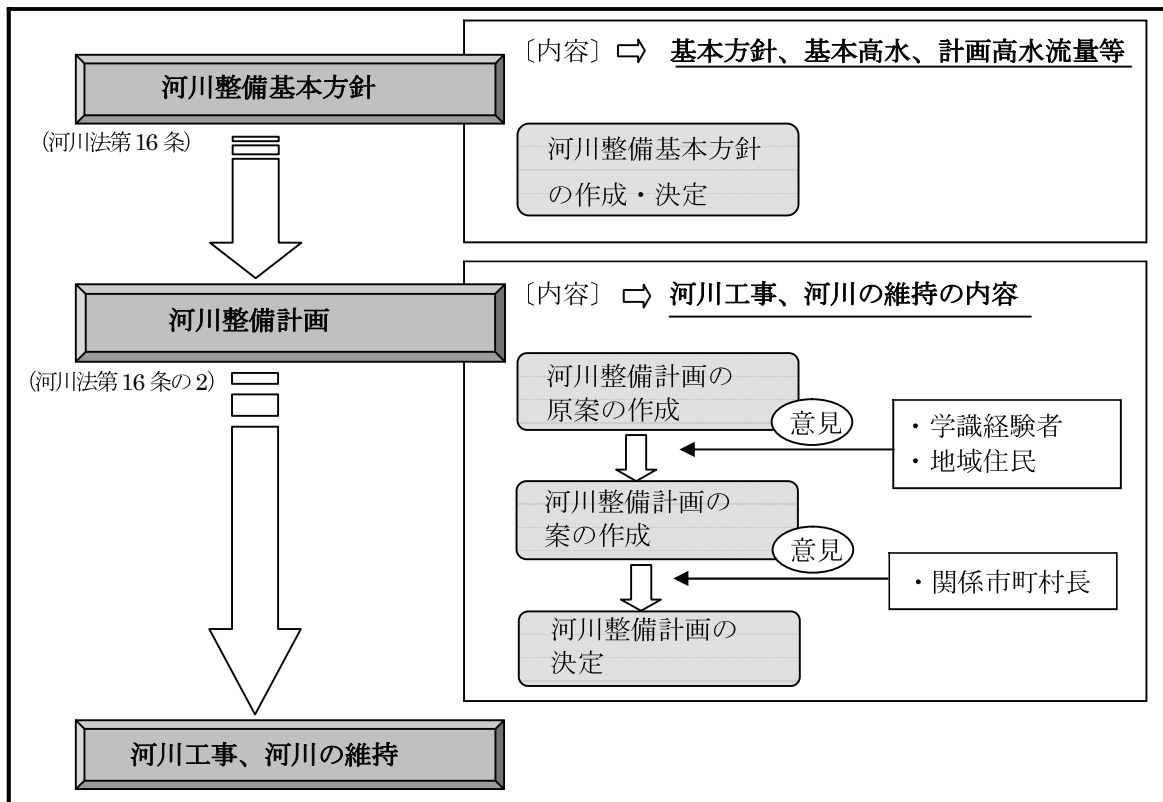


図 1-2 新しい河川制度の流れ

(4) 斐伊川水系上流域管理区間

斐伊川水系上流域の河川管理区間を表1-1に示す。

表1-1 (1) 斐伊川水系上流域河川管理区間一覧

河川名	河川延長 (km)	流域面積 (km ²)	指定年月日	告示番号	指定区間		備考
					上流端 上段(左岸)下段(右岸)	下流端	
斐伊川	国管理 118.70 県管理 34.02	1,996.26	S41.3.28	政令第50号	小方才川の合流点		ヒイカワ
槻ノ屋川	国管理 0.95 県管理 0.25	3.2	S43.4.8	政令第64号	雲南市木次町湯村字地藏堂267番地先 雲南市木次町湯村字地藏堂267番の1の内9地先	斐伊川への合流点	ツキノヤガワ
下布施川	国管理 1.55 県管理 0.75	3.6	S43.4.8	政令第64号	雲南市木次町北原字滝ノ上781番の内9地先 雲南市木次町北原字滝ノ上1,260番地先	斐伊川への合流点	シモブセガワ
奥下布施川	国管理 1.30	1.7	S63.4.8	建設省告示 第1124号	雲南市木次町北原828番1地先 雲南市木次町北原940番地先	下布施川への合流点	オクシモブセガワ
八代川	国管理 0.60 県管理 3.33	9.7	S41.3.28	政令第50号	清水迫川の合流点		斐伊川への合流点
三沢川	国管理 0.20 県管理 7.30	13.1	S41.3.28	政令第50号	仁多郡奥出雲町高尾字川端1,303番の2地先の野間尻橋		斐伊川への合流点
三所川	3.10	6.7	S41.3.28	政令第50号	仁多郡奥出雲町上三所字山サキ813番地先 仁多郡奥出雲町上三所字イダ357番の3地先		斐伊川への合流点
滝坂川	0.70	1.4	S47.4.26	政令第85号	仁多郡奥出雲町三成字オノ子林1,665番の1地先 仁多郡奥出雲町三成字桐木ケ谷1,625番地先		斐伊川への合流点
大馬木川	17.77	45.1	S41.3.28	政令第50号	五の畑川の合流点		斐伊川への合流点
雨川川	5.40	9.1	S41.3.28	政令第50号	仁多郡奥出雲町大谷字道の下右平1,419番地先 仁多郡奥出雲町大谷字奥田733番地先		大馬木川への合流点
小馬木川	3.93	15.8	S41.3.28	政令第50号	折渡川の合流点		大馬木川への合流点
小森川	1.80	3.5	S41.3.28	政令第50号	仁多郡奥出雲町小馬木字小森944番の3地先の鍛冶屋橋		小馬木川への合流点
女良木川	3.27	5.3	S41.3.28	政令第50号	仁多郡奥出雲町大馬木字道の下90番の1地先 仁多郡奥出雲町大馬木字小林77番地先		大馬木川への合流点
小峠川	1.96	7.5	S41.3.28	政令第50号	仁多郡奥出雲町大馬木字小峠960番の4地先 仁多郡奥出雲町大馬木字小峠銀山959番の1地先		大馬木川への合流点
亀嵩川	7.80	8.9	S41.3.28	政令第50号	客迫川の合流点		斐伊川への合流点
郡川	3.51	11.8	S41.3.28	政令第50号	奥高田川の合流点		亀嵩川への合流点

表 1 - 1 (2) 斐伊川水系上流域河川管理区間一覧

河川名	河川延長 (km)	流域面積 (km ²)	指定年月日	告示番号	指 定 区 間		備 考
					上流端 上段(左岸)下段(右岸)	下流端	
簾 川	2.50	6.5	S43. 4. 8	政令第 64 号	仁多郡奥出雲町高田字塚田 673 番地先 仁多郡奥出雲町高田字池ノ尻 503 番地先	亀嵩川への合流点	スダレガワ
西湯野川	2.01	7.4	S41. 3.28	政令第 50 号	湯谷川の合流点	亀嵩川への合流点	ニシユノガワ
下横田川	9.60	29.2	S41. 3.28	政令第 50 号	室原川の合流点	斐伊川への合流点	シモヨコタガワ
金川川	2.18	5.5	S41. 3.28	政令第 50 号	仁多郡奥出雲町八川字金川貞 2,698 番の 1 地先	下横田川への合流点	カナガワガワ
小八川川	3.05	7.7	S41. 3.28	政令第 50 号	仁多郡奥出雲町小八川字さこ 504 番地先 仁多郡奥出雲町小八川字山の神 429 番地先	下横田川への合流点	コヤカワガワ
室原川	2.20	5.0	S48. 4.12	建設省告示 第 870 号	仁多郡奥出雲町八川字室滝 2,540 番の 1 地先 仁多郡奥出雲町八川字室滝 2,537 番地先	下横田川への合流点	ムロハラガワ
洋畑川	0.30	1.1	S61. 4. 5	建設省告示 第 962 号	仁多郡奥出雲町八川字洋畑 2,536 番 3 地先 仁多郡奥出雲町八川字洋畑 2,536 番 2 地先	室原川への合流点	ヨウハタガワ
桐の木川	2.80	6.0	S41. 3.28 S47. 4.26	政令第 50 号 政令第 85 号変更	仁多郡奥出雲町稲原字廻 794 番の 1 地先 仁多郡奥出雲町稲原字板地栗 795 番の 1 地先	斐伊川への合流点	キリノキガワ
蔵屋川	3.00	6.8	S41. 3.28	政令第 50 号	仁多郡奥出雲町中村字角屋尻 2,152 番地先 仁多郡奥出雲町中村字角屋尻 2,165 番地先	斐伊川への合流点	クラヤガワ
獅子谷川	2.05	4.5	S41. 3.28	政令第 50 号	仁多郡奥出雲町中村字獅子谷金山 587 番地先 仁多郡奥出雲町中村字獅子谷金山 586 番地先	斐伊川への合流点	シンダニガワ
山の奥川	3.27	6.8	S41. 3.28	政令第 50 号	仁多郡奥出雲町大呂字柴木谷尻 670 番地先 の谷鐘橋	斐伊川への合流点	ヤマノオクガワ
福頼川	3.93	6.5	S41. 3.28	政令第 50 号	板屋谷川の合流点	斐伊川への合流点	フクヨリガワ
山郡川	1.96	6.5	S41. 3.28	政令第 50 号	畦原川の合流点	斐伊川への合流点	ヤマゴオリガワ

2. 流域の自然

(1) 地形・地質

【概要】

斐伊川水系上流域は、仁多郡奥出雲町及び雲南市木次町の一部が含まれ、その割合は奥出雲町が98%(274km²)、雲南市木次町が2%(5km²)である。本圏域は島根県の東南部、中国山地のほぼ中央部の北斜面に位置し、船通山、三国山、烏帽子山、吾妻山などの分水嶺の山群がそびえ、広島県、鳥取県との県境となっている。

斐伊川は中国山地の船通山に源を発し、三成ダム上流では山郡川、福頼川、下横田川などの水を集めて西流し、三成ダム下流では亀嵩川、大馬木川、三沢川などの支川と合流しながら北西に流れ、雲南市木次町へ入っている。

斐伊川水系上流域は面積の約90%が山地であり、残り約10%に斐伊川及び支流によって形成された河谷盆地や河岸平野がわずかに広がり、そこに集落が形成されている。

斐伊川水系上流域の地勢を図2-1に示す。



図2-1 地勢図 (S=1/200,000)

【地 形】

斐伊川水系上流域南方には、船通山（1,143m）、三国山（1,004m）、烏帽子山（1,225m）、吾妻山（1,239m）などの標高 1,000m を超える峰を有する中国脊梁山地が連なり、三国山から北に向かって分岐する船通山支脈を含めて、急峻な地形を成している。吾妻山、烏帽子山、船通山等の山頂には侵食によってできた平坦面（小起伏面）が認められる。

本圏域は分水嶺に近い山間地帯であり、河川の源流部にあたるため、沖積平野はごく狭く、わずかに存在するのみである。また、鉄穴流しによる平坦地が広範囲に分布している。

奥出雲町三成付近では斐伊川の両岸に階段状に土地の形がつかられており、これらの旧河床が段丘として残ったものを河岸段丘と呼ぶ。また、現河床より 3～5m 程度高所の細長く開けているところに上流から流れた土砂が堆積してできた河岸平野が分布するが、三成、亀嵩などに比較的広い平坦地があるほかは一般に規模が小さい。斐伊川と下横田川が合流する付近は、斐伊川本流沿いが幅広い凹地となっており、侵食盆地が広く展開している。この沖積低地を横田盆地と呼ぶ。

斐伊川水系上流域の地形を図 2-2 に示す。

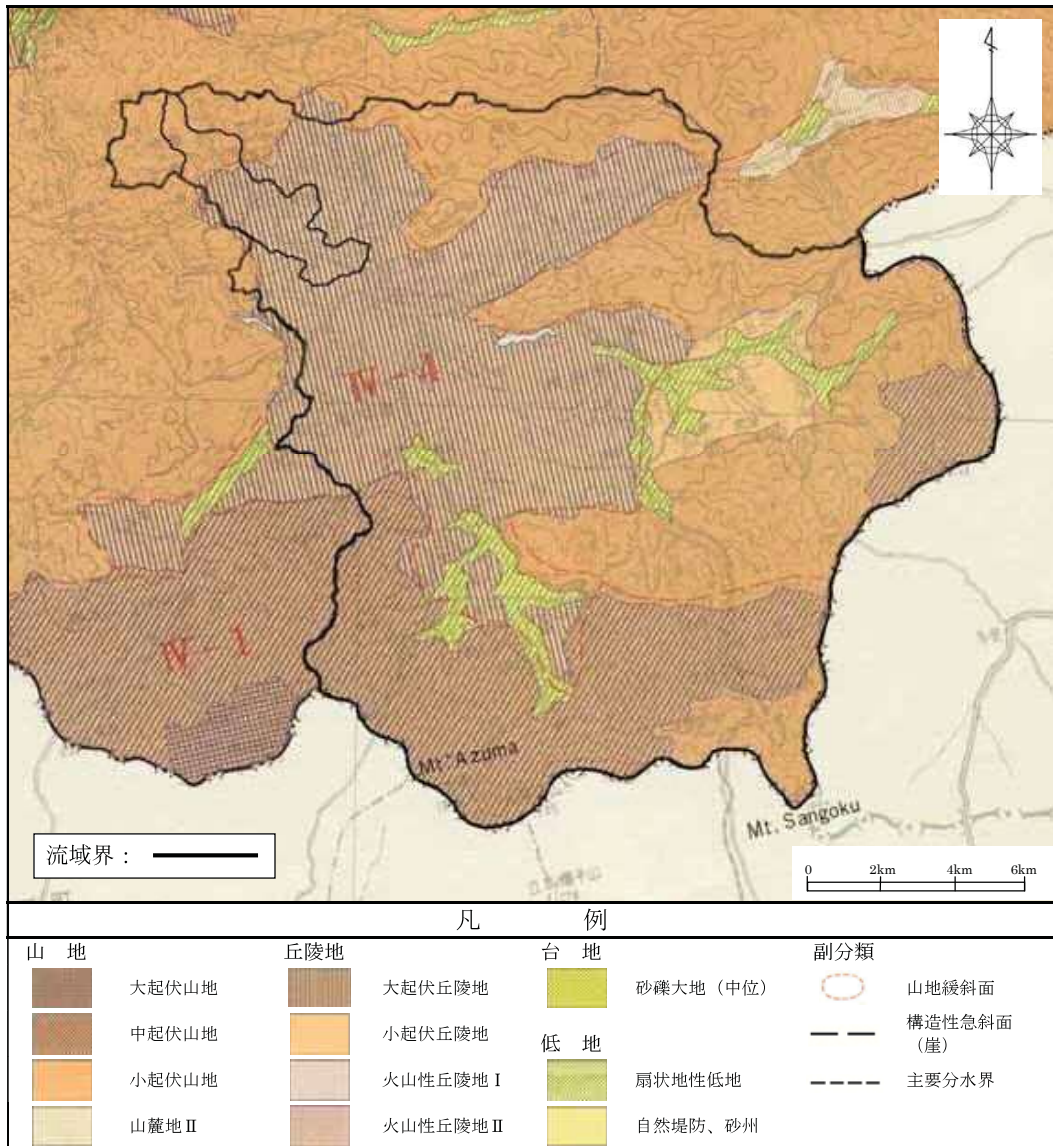


図 2-2 地形分類図 (S=1/200,000)

出典：「土地分類図(地形分類図)」(昭和 46 年) 島根県

【 地 質 】

斐伊川の上流域には花崗岩などの深成岩が広く分布し、脊梁山地から瀬戸内にかけて分布するものが広島花崗岩類、脊梁山地から山陰にかけて分布するものが因美花崗岩類と総称される。山陰地域で古第三紀に貫入したものは田万川深成岩と呼ばれる。また、吾妻山から船通山にかけては火山岩類の分布も見られる。

本地域における広島花崗岩類は閃緑岩～花崗閃緑岩が主体で、深層風化が非常に顕著で、風化した基盤岩は「マサ土」と呼ばれている。横田や三成の小盆地群はこれら閃緑岩～花崗閃緑岩が侵食されて形成された侵食盆地となっており、地形と良く対応している。因美花崗岩類や田万川深成岩は主に花崗岩から構成される。中～細粒花崗岩は粗流花崗岩に比べて風化に対する抵抗性が大きく、起伏の大きい地形や「鬼の舌震」にみられるような峡谷を形成している。田万川深成岩は磁鉄鉱の含有量が大であること、閃緑岩～花崗閃緑岩も深層風化によって掘削が容易なことから、両者の分布地域では古来より、「鉦」の原料の山砂鉄が広く採掘されてきた。

広島花崗岩類と因美花崗岩類には斑れい岩や石英閃緑岩も含まれるが、これらは小さい岩株状の岩体で分布範囲も狭い。一般に、風化に対する抵抗性が大きく、やや突出した地形や急な山腹斜面を構成している。

斐伊川水系上流域の地質を図2-3に示す。

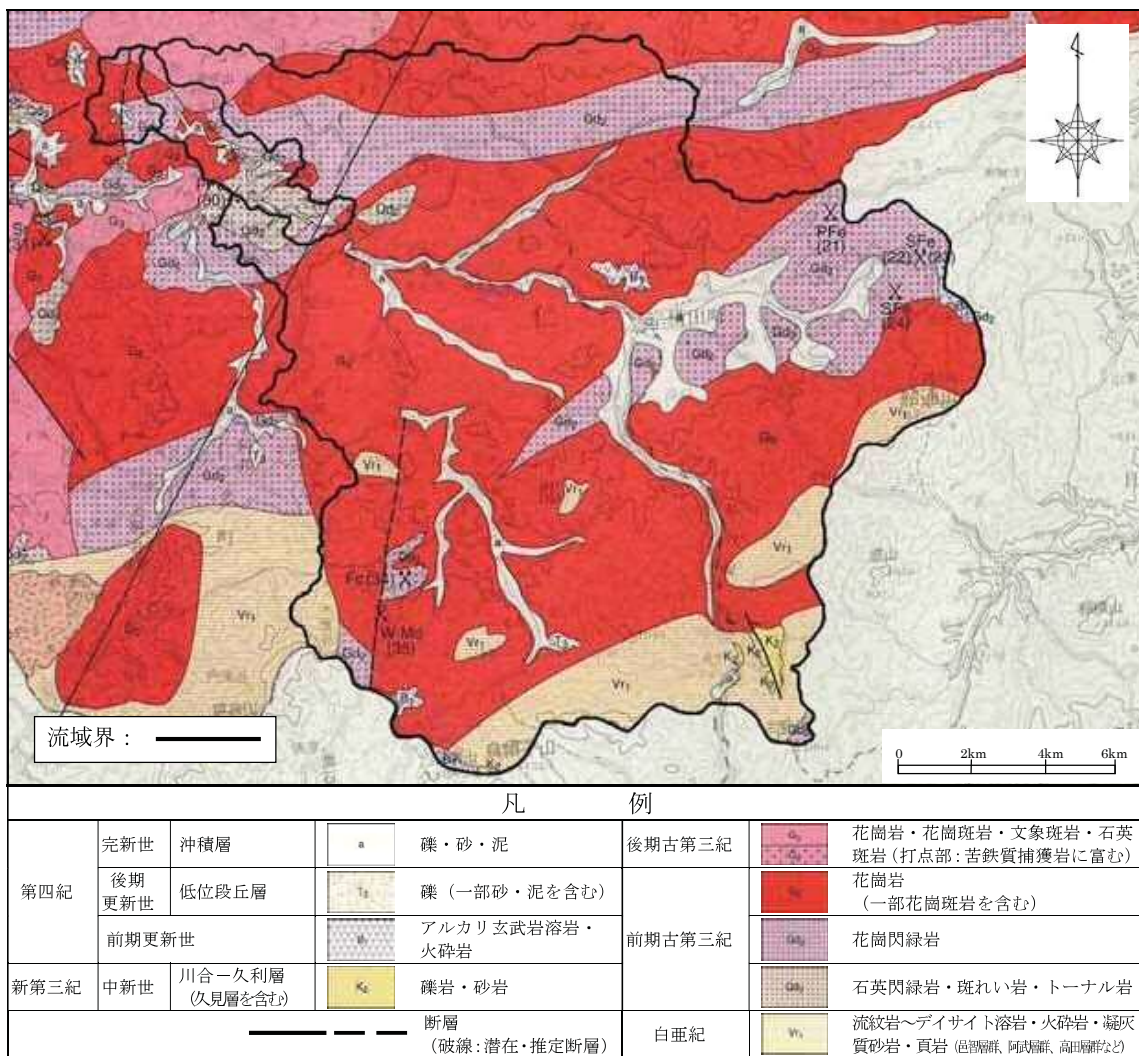


図 2-3 地質平面図 (S=1/200,000)

出典: 「新編 島根県地質図」(1997年) 新編島根県地質図編集委員会

(2) 林 相

奥出雲町域の総面積(368.06km²)のうち、林野面積は30,698ha(83.4%)を占め、その経営形態別林野面積は、国有林が2,111ha(6.9%)と少なく、全体の93.1%にあたる28,588haが民有林となっている。また、樹種別面積(27,675ha)構成は、針葉樹が62.7%(17,355ha)、広葉樹が37.3%(10,320ha)、となっている。

雲南市木次町域の総面積(64.07km²)のうち、林野面積は3,876ha(60.5%)を占め、その経営形態別林野面積は、全て民有林となっている。また、樹種別面積(3,484ha)構成は、針葉樹が52.9%(1,844ha)、広葉樹が47.1%(1,640ha)、となっている。

林相は主に、アカマツ植林、クロマツ植林、スギ・ヒノキ植林などの植林地に加え、代償植生のコナラ群落、シイ・カシ萌芽林が占めている。県境付近には自然植生が比較的多く分布する。

斐伊川水系上流域の林相を図2-4に示す。



図2-4 林相図(現存植生図) (S=1/200,000)

出典:「島根県現存植生図」(1982, 1986年) 環境庁

(3) 気象

斐伊川水系上流域は、県東部の気候区に属し、南に「山陰気候区」と「瀬戸内海気候区」の境界である中国山地を背にするため、冬には積雪地帯となる裏日本型の気候である。年平均気温は12℃前後で、山間盆地では夏は比較的暑くなるが、冬は寒さが厳しく、零度以下になることもある。

1mm以上の雨の降った日数も年間140～190日程度あり、冬期の積雪も多く、残雪が4月中旬にまで及ぶことがある。流域内での6月下旬～7月上旬の降雨はしばしば豪雨となり、山腹の崩壊を起こし、人家や農地等に被害を及ぼしている。また、10月半ばから下旬頃には初霜があり、遅霜は5月上旬に及ぶ。

斐伊川水系上流域の気候概況を表2-1に示す。

表2-1 気候概況

観測所：横田地域気象観測所

年次	降水量(mm)			気温(℃)			風速(m/s)		最深積雪量(cm)	日照時間(h)
	合計	最大日雨量	最大時間雨量	平均	最高	最低	平均	最大		
昭和51年	1,894	104	92	///	///	///	///	///	///	///
昭和52年	1445]	87]	30]	///	///	///	///	///	///	///
昭和53年	1134]	63]	21]	4.1]	17.1]	-6.4]	1.2]	8]	///	202.6]
昭和54年	1,621	133	25	12.3	33	-8.0]	1.4	11	///	2082.7
昭和55年	1781]	98]	23]	11	31.0]	-12.2	1.3	10	///	1766.2
昭和56年	1494]	76]	21]	11.1	32.1]	-13.1	1.2	8	///	1971
昭和57年	1,476	82	20	11.7	31.5	-9.6	1.1	8	84]	2017.2
昭和58年	2,074	127	26	11.8	32.7	-9.4	1.2	9	58	1923.6
昭和59年	1,289	95	28	11.1	34.2	-11	1.1	7	139	1987.1
昭和60年	2,080	142	44	11.9	34.5	-10.8]	1.2	8	57	1789.4
昭和61年	1,596	103	25	11.1	33.3	-12.1	1	7]	70	1817.4
昭和62年	1,797	85	33	11.9	31.5	-7.9	1	9	69	1089.9]
昭和63年	1,690	77	42	11.2	32.8	-7.9	1.1	9	37]	1280.4
平成元年	2,102	96	38	12	31.3]	-8.8	1.1	10	45	1299.4
平成2年	1,796	83	26	12.7	33.5	-7.1	1.2	9	71	1429.4
平成3年	1,747	75	21	12.1	32.1	-12.5	1.2	10	59	1,032.1
平成4年	1,326	49	14	11.9	32.3	-8.5	1.1	8	31	1,136.6
平成5年	2,102	152	45	11.6	31.6	-7.9	1.3	8	45]	1,026.1
平成6年	1,263	88	31	12.7	35.1	-9.3	1.3	7	90	1,429.4
平成7年	1,874	79	39	11.4	33.2	-11.5	1.3	8	65	1,155.3
平成8年	1,495	76	19	11.5	34.1	-9.8	1.3	9	66	1,498.2
平成9年	2,103	157	41	12.1	32.6	-11.3	1.4	9	41	1,528.1
平成10年	1,787	133	36	13.3	32.5	-8.1	1.3	8	60	1,458.4
平成11年	1,628	114	28	12.5	33.5	-11	1.3	8	41	1,523.1
平成12年	1,485	117	25	12.6	34.4	-11.5	1.3	9	44	1,695.1
平成13年	1,923	90	34	12.3	33.9	-8.9	1.3	8	60	1,640.3
平成14年	1,565	41	29	12.6	34.6	-6.4	1.4	8	38	1,636.1
平成15年	1,955	71	23	12.4	32.9	-11	1.3	9	72	1,457.0
平成16年	2,017	148	36	13.2	35	-10.6	1.3	14	60	1,727.6
平成17年	1,729	121	70	12.3	33.8	-9.6	1.3	8	54	1,604.9
平成18年	2,092	149	44	12.5	33.8	-9.9	1.2	9	116	1,531.6
平成19年	1,474	62	44]	13	34.2	-7.6	1.2	9	20	1,627.0
平成20年	1,606	59	34.5]	12.1	34.8	-8.7	1.1	9	71	1,557.0
平成21年	1,750	166	34	12.1	33.6	-8.9	1.3	9.4	96	1,484.5
平成22年	1,692	57	36	12.6	36.3	-8.5	1.5	10.2	48]	1,545.5
平年値	1,717			11.9	16.8	7.2	1.2			1,489.6

注1) 値]は資料不足。

注2) 赤線は、観測場所の移転や観測方法の変更、測器の変更などの理由により、観測データがこの前後で均質でない可能性あり。

注3) 平年値は昭和54年～平成12年の22年間の値（日照時間については昭和62年～平成12年の14年間の値）。

出典：気象庁 HP

(4) 動植物

【動物】

i) 哺乳類

斐伊川水系上流域に生息する哺乳類は、天然の自然林が人工的な第二次・第三次の山林に変わり、そのすみかや餌が減少したために、生態が変化しつつある。その中であって、イノシシ、タヌキ、サル等は人里にまで出没するようになっている。特に、大型の哺乳類で「改訂しまねレッドデータブック」の絶滅危惧Ⅰ類に選定されているニホンツキノワグマは、標高 800m 以上のブナ、ミズナラ等を中心とした広大な原生的自然林の恵まれた生息環境の中で地域個体群を正常に維持してきたが、1950 年頃から始まった大規模な森林開発によって深山の伐採とスギやヒノキの人工林化が進み、地域個体群としての生息維持が極めて危険な状況になっている。このほか、準絶滅危惧であるニホンキクガシラコウモリ、ニホンイタチが確認されている。

ニホンツキノワグマ：

日本列島に生息するクマは、ブラキストン線（津軽海峡）によって北海道のヒグマと本州・四国・九州にすむツキノワグマに区別される。ツキノワグマは本州の中部以北に生息密度が高く、四国や九州ではほぼ絶えてしまった現在、本州最西端の西中国山地に生息しているツキノワグマは、極めて貴重な地域個体群である。



（「しまねレッドデータブック」より）

本種は成獣で頭胴長 140cm、体重 90kg 内外であり、体は黒色で大きな頭に直立した小さな耳と優しい丸い目をもっている。胸には白い三日月紋があるが、この形や大きさには個体差が著しい。ツキノワグマは食肉目であってもブナ科の堅果を中心とした植物の実や若芽などを主に食べる草食性で、アリやハチの巣、それにサワガニを食べる他には進んで動物を捕食することはない。北海道のヒグマとは異なり、積極的に人畜に危害を加えることもない。比較のおとなしい習性である。

ii) 鳥類

斐伊川水系上流域では主に山地性及び溪流性の鳥類がみられる。絶滅危惧Ⅰ類としてハチクマ、サシバ、ブッポウソウ、絶滅危惧Ⅱ類としてヨタカ、準絶滅危惧としてハイタカ、ヤマセミ、サンコウチョウが注目される。溪流に関わりの深い鳥類としては、カワセミやカワガラスが生息している。

ハチクマ：良好な環境が保持されている里山の丘陵帯における生態系の頂点として生息する。日本においては夏鳥で、蜂を好んで食べる。

ブッポウソウ：夏鳥として渡来し、巨木からなる針葉樹林に生息する。青緑色の体に赤い嘴の、ハトより少し小型の鳥で、ゲツゲツと鳴く。

ヤマセミ：溪流に棲む生物の食物連鎖の頂点に位置し、生息環境の指標として重要である。山地の溪流や湖に留鳥として棲み、水中にダイビングして魚をとる。

iii) 爬虫類・両生類

斐伊川水系上流域では、爬虫類 8 種、両生類 13 種が確認されている。そのうち、絶滅危惧Ⅱ類としてオオサンショウウオ、準絶滅危惧としてヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、モリアオガエル、カジカガエルが注目される。

オオサンショウウオ：国の特別天然記念物。西日本の山地のみに生息し、中国山地が主な生息地。体長 1m 以上にまで成長する世界最大の両生類。日本固有種。一生を水中で過ごす。

ヒダサンショウウオ：もともと全国的に希少種。標高の高い山地の溪流付近にしか生息しないので生息地に限られる。溪流の流水部分で産卵し、孵化した幼生は流れの緩やかな部分に移動して水中の落ち葉や石の間などで生活し、水生昆虫を食べて成長する。成体は溪流近くで陸上生活を送る。

ハコネサンショウウオ：本州と四国に分布。自然度の高い山地溪流にのみ産卵し、幼生は溪流で長期間かけて成長するため、溪流のある山地のみに生息環境に限られる。成体には肺がない。体長は 15cm くらいで細身、尾は長く体長の半分以上を超える。体色は全身が紫褐色で、背側の中央部から尾の先まで朱黄色の縦帯がある。

モリアオガエル：本州に広く生息し、平地から亜高山帯と分布は広い。成体(カエル)は樹上で生活し、産卵期(5~7月)になると、池や田んぼに張り出した樹木の細枝に、黄白色の泡に包まれた卵塊を産み付ける。しばらくしてふ化した幼生は水面に落ちて、おたまじゃくしとして生活を始める。

カジカガエル：本州、四国、九州の山地の清流域や溪流に分布。低水温の清流を好んで棲む。大きさは雌で 7cm、雄で 4cm くらい。繁殖期の 5~8 月頃まで雄が独特の美しい泣き声で鳴く。斐伊川の上流部にはまだ多数見られる。

iv) 魚類

斐伊川水系上流域でよく見られる種は、カワムツ、ウグイ、オイカワ、タカハヤ等のコイ科の魚と、主要な漁業・遊魚対象種のヤマメ、アマゴ、アユなどである。また、絶滅危惧Ⅰ類としてゴギ、絶滅危惧Ⅱ類としてカジカ、準絶滅危惧としてオオヨシノボリ、アカザなどが注目される。

ゴギ：サケ科イワナ属。中国地方の一部のみに分布が限定される。形態的には他のイワナ類に比べやや頭部が丸く、頭頂に特徴的な虫食い状の斑点がある。体長 20cm 程度。河川の最上流部の水が清流で、水温 20℃を超えないところに生息している。

オオヨシノボリ：ハゼ科ヨシノボリ属。ヨシノボリ属の中では最も大きく、体長 10cm を超える個体もいる。体色は全体的に黒味が強く、特に繁殖期のオスはほとんど黒一色となる。水量が豊富で流れの早い場所に生息する。

アカザ：ギギ科アカザ属。日本固有種。分布は本州、四国、九州と広いが、全国的に少なくなっている。体長は 10~15cm、体色は暗赤色ないし明るい赤褐色で、口に 6 本の長いひげを有する。水の比較的きれいな川の中流から上流下部の石の下や間に棲む。

カジカ：カジカ科カジカ属。日本固有種。分布は広く本州、四国を中心に北海道、九州の一部でも見られる。回遊性と河川陸封性の 2 型がある。上流に生息するのは河川陸封性のもの。瀬の石礫底に生息する。

なお、平成 22 年度に実施された「河川水辺の国勢調査」によって確認された斐伊川水系上流域の魚種は、以下のとおりである。斐伊川三成地区で絶滅危惧Ⅱ類のスヤナツメや準絶滅危惧のオオヨシノボリが確認されている。

淡水魚：スヤナツメ、コイ、フナ属、オイカワ、カワムツ、タカハヤ、モツゴ、ドジョウ、シマドジョウ、ナマズ、ヤマメ、アマゴ、ドンコ、カワヨシノボリ

回遊魚：ウナギ、ウグイ、アユ、オオヨシノボリ

【植 物】

斐伊川水系上流域の自然植生は、暖温带林としての常緑広葉樹林域と、冷温带林としての夏緑広葉樹林域（ブナクラス域）の両域にわたっている。しかし、現在ではほとんどが伐採や植林により代償植生（二次林）にかわり、県境や神社等に植生自然度の高い地域がわずかに残るのみである。

保全すべき特定植物群落としては、「仁多湯野神社のモミ林」(E)、「船通山のブナ林」(A)、「鬼の舌震の樹林」(A・E)、「小馬木の照葉樹林」(A・E)が分布する。このうち、奥出雲町亀嵩にある湯野神社は歴史的な自然環境保全地域にもなっており、境内の大ケヤキは奥出雲町指定天然記念物である。このほか、国指定天然記念物の「竹崎のカツラ」や県指定天然記念物の「湯の廻のキャラボク」、奥出雲町指定天然記念物の「金言寺の大イチョウ」が存在する。また、「鬼の舌震」は国の名勝天然記念物及び県立自然公園に、船通山・吾妻山は比婆道後帝釈^{ひばどうごたいしやく}国定公園に指定されている。

絶滅危惧Ⅱ類であるオキナグサ、カタクリ、ダイセンキスミレ、カンボクが生育する。

オキナグサ：日本、朝鮮、中国の範囲に分布域のある植物で、本来は草原に生える多年草。植物体は全体に白毛が多く、赤紫色の花が横向きから下向きに咲く。茎頂に果実を球状につけるが、花柱が長く伸び、白毛を密生して特異な形状となる。

カタクリ：北海道から九州まで分布。葉は多くは2枚つき、葉身には独特な斑紋がある。花冠は紅紫色で、花は下向きに咲く。早春植物の一つで春一番に葉を出すと同時に花をつけ、夏までに地上部は枯れる。

ダイセンキスミレ：本州の中国地方に分布し、中国山地の脊梁部を中心に生える。初夏の頃に美しい黄花が咲き、茎は普通、濃い紫色を帯びていて特徴的である。

カンボク：北海道から本州中北部に多く、本州西部にもまれに分布する。夏緑性の低木で、葉は広卵形で上部で3中裂し対生する。花は初夏の頃に咲き、枝先の散房花序に多くの小花をつける。

特定植物群落

自然環境保全法に基づき、特定植物群落には以下の選定基準がある。

- A……原生林もしくはそれに近い自然林
- B……国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
- C……比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地に見られる植物群落又は個体群
- D……砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E……郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの（武蔵野の雑木林、社寺林等）
- F……過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G……乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群
- H……その他、学術上重要な植物群落又は個体群

斐伊川水系上流域で確認された重要な動植物を表2-2に示す。

表 2-2 斐伊川水系上流域で確認された重要な動植物

しまね RDB 類別	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類	準絶滅危惧	情報不足	—
哺乳類	ニホヅクノリガマ(LP)		ニホヅクノシラウモリ ニホヅク (ホトノイ)		
鳥類	ハチクマ(NT) サバ(VU) フッポウウ(EN)	ヨカ(NT)	ハイカ(NT) ヤマシ サコウチョウ		
両生類・ 爬虫類		オサシヨウウ(VU)	フチサシヨウウ(NT) ヒダサシヨウウ(NT) ハコサシヨウウ モリアカエル カシカエル シロマダラ		
汽水・ 淡水魚類	コギ(VU)	カシカ(NT) スヤツメ(VU)	オシボリ アカサ(VU)		ニホヅク(EN) ヤマ(NT) トシヨウ(DD)
昆虫類		キフチョウ(VU) ヒロヒミドリシジミ ゲンコロウ(VU) エゾミドリシジミ カラスシジミ	オムラサキ(NT) ムカシホ ムカシヤマ ササヤマ ハツチウトンホ ミヤマカネ ガロアムシ ウラコマダラシジミ オカシジミ ハヤシミドリシジミ フジミドリシジミ ミスジチョウ	アオマダラタマシ	ゴマシジミ(VU)
陸・淡水産 貝類			オムラサキイ(VU) ヤマカマイ(NT) ダケニシキマイ モリヤセル(NT)		
植 物		オキナガサ(VU) カタクリ ダケキスシ カボク			

出典：「改訂しまねレッドデータブック」(H16年3月、H25年3月(植物編のみ))島根県、
「環境省第4次レッドリスト」(H25年2月)環境省

表 2-3 レッドデータブック等カテゴリー

カテゴリーとその定義	改訂しまねレッドデータブック	環境省レッドリスト
絶滅 (EX)	本県ではすでに絶滅したと考えられる種	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧 I A 類 (CR)		ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧 I B 類 (EN)		I A 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危機が増大している種	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	—	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

3. 流域の人口及び社会経済

(1) 人口の推移

昭和60年から平成22年の国勢調査によると、斐伊川水系上流域内の町村である奥出雲町、雲南市木次町の人口及び世帯数の推移は表3-1のとおりとなっている。

各町とも昭和60年から現在までに1割以上の減少傾向が続いており、若年層の都会への流出及び少子高齢化による過疎化が深刻な問題となっているため、行政による定住化対策などの施策が進められている。

人口・世帯数の推移を表3-1～2、図3-1に示す。

表3-1 流域内関係市町村の人口・世帯数

項目	昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	人口(人)	世帯数(世帯)	人口(人)	世帯数(世帯)	人口(人)	世帯数(世帯)	人口(人)	世帯数(世帯)	人口(人)	世帯数(世帯)	人口(人)	世帯数(世帯)
奥出雲町	18,706	4,751	18,100	4,724	17,426	4,722	16,689	4,880	15,812	4,874	14,456	4,713
雲南市木次町	10,831	2,852	10,516	2,831	10,394	2,936	10,079	2,979	9,648	3,004	9,049	2,955
島根県	794,629	233,161	781,021	236,110	771,441	246,476	761,503	257,530	742,223	260,864	717,397	262,219

出典：しまね統計情報データベース

表3-2 流域内関係市町村の人口増減率

項目	S60～H2	H2～H7	H7～H12	H12～H17	H17～H22	S60～H22
奥出雲町	-3.24%	-3.72%	-4.23%	-5.25%	-8.58%	-22.72%
雲南市木次町	-2.91%	-1.16%	-3.03%	-4.28%	-6.21%	-16.45%
島根県	-1.71%	-1.23%	-1.29%	-2.53%	-3.34%	-9.72%

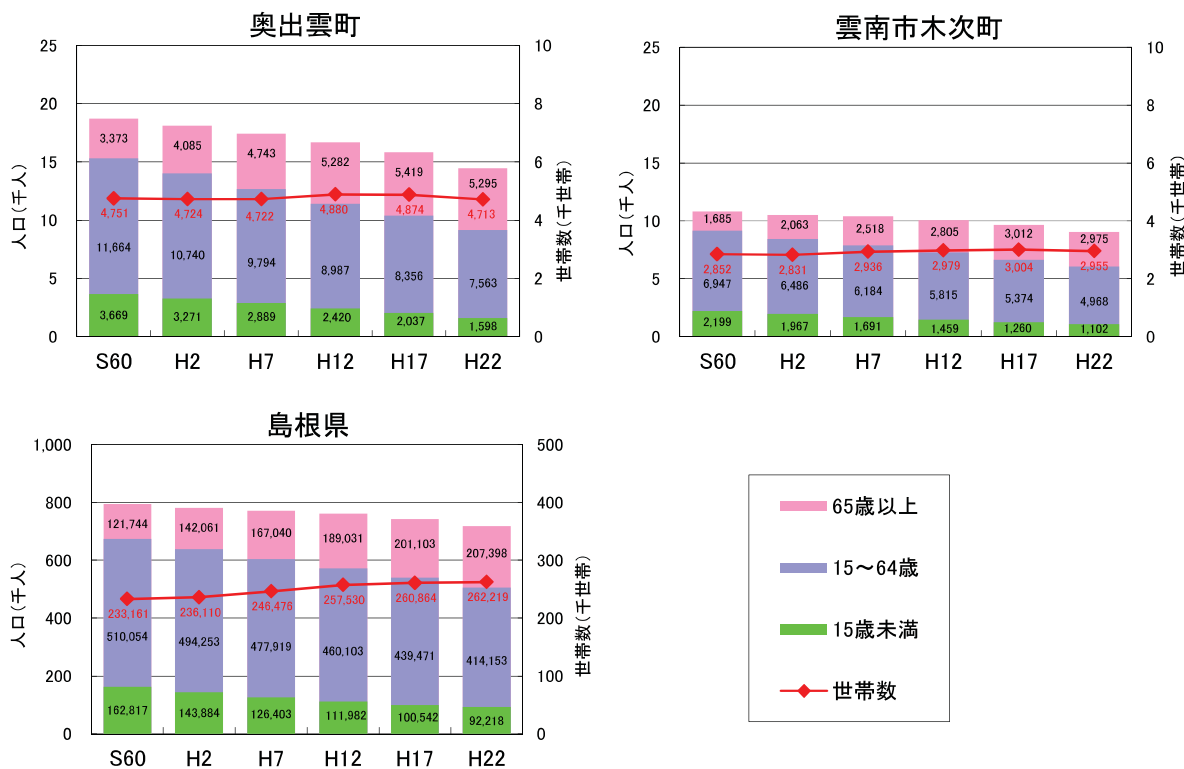


図3-1 人口・世帯数の推移

(2) 産業構造の変遷

昭和 60 年から平成 22 年の国勢調査による産業別就業者数を見ると、雲南市木次町では第一次・第二次産業が減少して第三次産業が増加傾向を示しているのに対し、奥出雲町では近年、第三次産業が減少して第一次・第二次産業が増加傾向を示している。

平成 22 年の産業別就業者数は、第一次産業は奥出雲町が 22.3%であるのに対し、雲南市木次町は 8.1%と低い。第二次産業は奥出雲町、雲南市木次町とも 30%程度を占めている。第三次産業は奥出雲町が 45.2%であるのに対し、木次町は 57.2%と若干高い。

産業別就業者数の推移を表 3-3、図 3-2 に示す。

表 3-3 流域内関係市町村の産業別就業者数

年次	産業別	奥出雲町			雲南市木次町			島根県		
		総数 (人)	産業別 (人)	構成率 (%)	総数 (人)	産業別 (人)	構成率 (%)	総数 (人)	産業別 (人)	構成率 (%)
昭和60年	一次産業	10,587	3,644	34.4%	5,875	1,104	18.8%	414,268	80,479	19.4%
	二次産業		3,626	34.2%		1,947	33.1%		125,028	30.2%
	三次産業		3,317	31.3%		2,824	48.1%		208,585	50.4%
平成2年	一次産業	10,090	2,937	29.1%	5,642	845	15.0%	402,557	62,891	15.6%
	二次産業		3,694	36.6%		2,083	36.9%		126,264	31.4%
	三次産業		3,455	34.2%		2,707	48.0%		213,033	52.9%
平成7年	一次産業	9,722	2,543	26.2%	5,686	800	14.1%	406,463	55,667	13.7%
	二次産業		3,462	35.6%		2,011	35.4%		123,299	30.3%
	三次産業		3,716	38.2%		2,875	50.6%		227,066	55.9%
平成12年	一次産業	8,852	1,760	19.9%	5,308	486	9.2%	389,849	40,896	10.5%
	二次産業		3,274	37.0%		1,897	35.7%		112,631	28.9%
	三次産業		3,799	42.9%		2,918	55.0%		234,762	60.2%
平成17年	一次産業	8,174	1,785	21.8%	4,976	502	10.1%	368,957	37,109	10.1%
	二次産業		2,599	31.8%		1,630	32.8%		93,085	25.2%
	三次産業		3,779	46.2%		2,820	56.7%		236,524	64.1%
平成22年	一次産業	7,579	1,689	22.3%	4,543	369	8.1%	347,889	28,816	8.3%
	二次産業		2,461	32.5%		1,378	30.3%		81,235	23.4%
	三次産業		3,428	45.2%		2,597	57.2%		227,870	65.5%

出典：しまね統計情報データベース

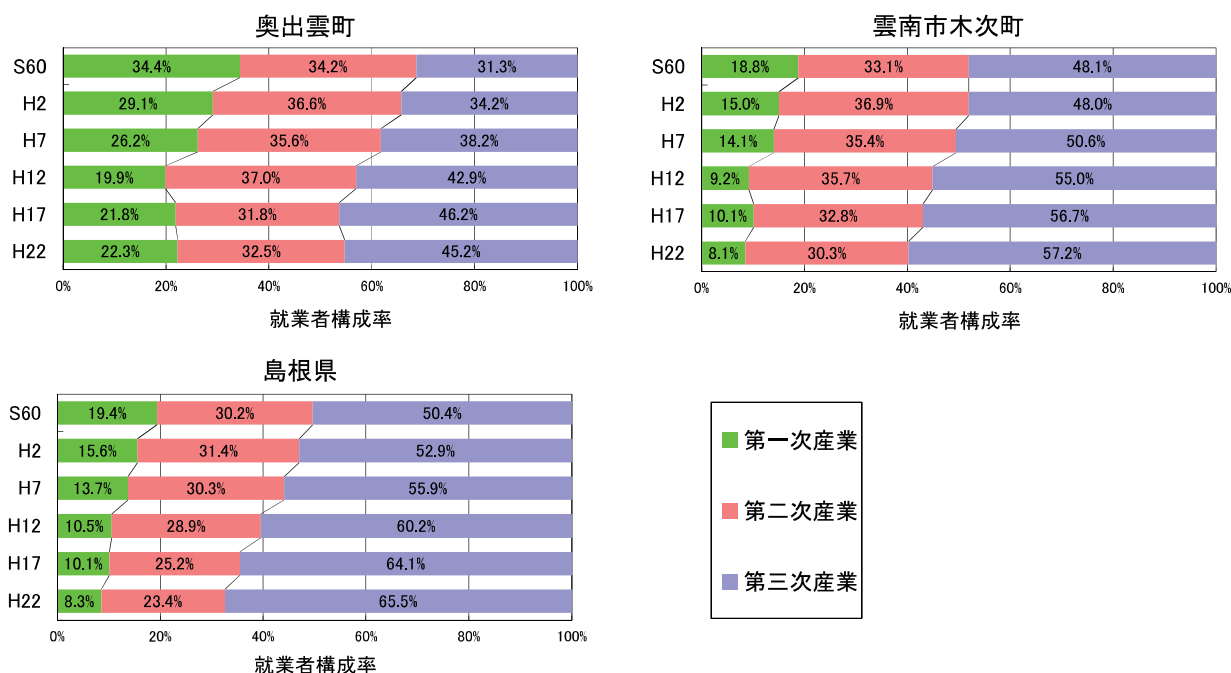


図 3-2 産業別就業者構成率の推移

4. 流域の景観及び観光

(1) 景観

島根県の東南部に位置する仁多郡奥出雲町は、南は広島県庄原市、東は鳥取県日南町と接している。中国山地から分岐する山並みに囲まれ、山林が80%以上を占める緑豊かな地域である。

古くから開けた土地であり、奥出雲町東部にある船通山は、「古事記」によると、高天原を追われた素戔鳴尊が降り立って八岐大蛇を退治した舞台とされ、山頂には「天叢雲劍出顕之地の碑」がある。中腹にある「鳥上の滝」は斐伊川の源で、その溪流沿いの遊歩道の両側にはブナの原生林が広がり、自然の宝庫となっている。近世以降は松江藩の保護政策もあり、「鉦製鉄業」の中心地として栄え、本圏域内には鉦跡や砂鉄を採取した「鉄穴流し（花崗岩類の風化土層を切り崩して水路に流し、比重選別によって砂鉄を採取する法）」の跡が至る所で認められる。

斐伊川の支流である大馬木川の中流およそ3kmには、花崗岩の上を急流により削りとられたV字谷の大渓谷「鬼の舌震」がある。この渓谷の左右には、大天狗岩、小天狗岩などの岸壁が屹立し、至る所にはんど岩や亀岩、千畳敷、天狗遊岩、畳石など、風化や水食による奇岩や怪岩が累々として横たわり、河底には大小の甌穴群が見られる。清流はそれらの間を縫って急流をつくり、また至る所に深淵をたたえ、壮大な景観を展開している。「鬼の舌震」は1927年（昭和2年）に国の名勝天然記念物、昭和39年には県立自然公園に指定されている。

広島県と島根県の分水嶺に建設された三井野原道路の「奥出雲おろちループ」は、『神話とたたらの里』にふさわしくとぐろを巻く大蛇をイメージしたもので、トンネルの入口やモニュメントなどのデザインにも特徴がある。展望台から眺める中国山地の景観はすばらしい。

また、伝統産業では全国でも名高い「雲州そろばん」の産地であるが、その発祥の地であると言われる亀嵩は、松本清張の小説で映画化された「砂の器」にも登場する地であり、「砂の器舞台の地」の記念碑が建てられている。



(仁多町観光協会HPより)

写真4-1 鬼の舌震

(2) 観 光

斐伊川水系上流域の代表的な観光施設としては、「鬼の舌震」、「奥出雲多根自然博物館」、「可部屋集成館」、「玉峰山森林公園」、「三井野原スキー場」、「絲原記念館」、「岩屋寺」、「奥出雲たたらと刀剣館」などが存在している。このほか、周辺の優れた自然環境を活かした玉峰山遊歩道、鯛の巣登山道などが整備され、ハイキングや自然観察を気軽に楽しむことができる。

特に、斐伊川の支流である大馬木川の大渓谷「鬼の舌震」は、急流に浸食された巨岩・奇石が見るものを圧倒する。また、一帯は県立自然公園にもなっており、この地域では四季を通じて渓谷美や中国山地の美しい風物が楽しめる。

また、船通山山麓の「斐乃上温泉」、玉峰山山麓の「亀嵩温泉」などの温泉施設や、天然記念物である「竹崎のカツラ」、全国で三ヶ所しかない鉄道の三段式スイッチバックのある西日本旅客鉄道木次線の「出雲坂根駅」などがある。そして、この坂根（標高 564m）と三井野原（731m）間を標高差 167m、区間 4 km に渡って結ぶ「奥出雲おろちループ」は国内最大規模の二重ループ方式であり、展望台からの眺めはすばらしい。

流域内の主な観光施設について、観光客数の推移を表 4-1 に示す。

表 4-1 流域内の観光施設別観光客数

(単位:人)

施設名	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	備考
鬼の舌震	89,880	97,900	100,220	103,850	100,000	100,000	100,900	100,600	102,125	95,579	
奥出雲多根自然博物館	3,872	4,931	6,345	5,297	3,626	3,900	4,149	3,340	3,066	4,243	博物館等
可部屋集成館	5,571	7,641	8,061	8,442	4,340	4,006	6,780	8,858	9,872	6,523	博物館等
玉峰山森林公園	4,259	4,804	5,140	5,770	3,500	-	-	-	-	-	
玉峰山荘	128,937	173,856	180,172	185,906	162,937	150,304	144,195	137,553	146,526	134,885	温泉
酒蔵奥出雲交流館	-	-	-	-	-	63,865	114,832	102,871	110,294	111,810	
三井野原スキー場	22,250	20,195	21,020	19,550	8,000	8,650	2,538	6,581	5,527	4,807	スキー場
絲原記念館	27,935	26,843	24,831	19,975	16,432	15,564	17,069	12,978	12,300	9,923	博物館等
吾妻山	1,550	1,650	1,900	1,900	1,500	-	-	-	-	-	キャンプ場
奥出雲たたらと刀剣館	8,342	8,820	8,702	8,127	8,603	7,316	7,288	6,589	6,945	4,891	博物館等
道の駅おろちループ	185,600	167,700	162,900	172,900	156,400	143,700	144,400	144,100	152,500	135,200	
交流館「三国」	66,840	63,930	59,650	68,190	61,030	57,620	55,380	43,820	51,640	46,090	
ヴィア船通山斐乃上荘	72,269	70,406	63,870	62,142	59,520	58,339	59,379	41,180	51,860	29,483	温泉

出典:「島根県観光動態調査結果」観光振興課



図 4-1 観光施設位置図

5. 流域の文化財と歴史

(1) 文化財

斐伊川水系上流域には、国の名勝及び天然記念物である鬼の舌震（昭和2年4月8日指定）をはじめ、数多くの指定文化財が存在する。

奥出雲町及び雲南市木次町の指定文化財を表5-1に示す。

表5-1 (1) 指定文化財

町名	番号	指定	種別	指 定 年月日	名 称	数量	所在地	所有者 保持者	備考
奥出雲町 (仁多地域)	1	国	名天	昭 2.4	鬼の舌震	—	三成	奥出雲町他	
	2	〃	登録	平 16.2	絲原家住宅主屋	1 棟	大谷		
	3	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅前座敷	1 棟	大谷		
	4	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅南蔵	1 棟	大谷		
	5	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅米蔵	1 棟	大谷		
	6	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅待合	1 棟	大谷		
	7	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅御成門	1 棟	大谷		
	8	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅塀	1 棟	大谷		
	9	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅門柱	1 棟	大谷		
	10	〃	〃	平 16.2	絲原家住宅金屋子神社	1 棟	大谷		
	11	県	書	昭 39.5	紙本墨書辺微意知語	1 卷	三沢	蔭涼寺	
	12	〃	史	S39.5 追加 S49.12	三沢城跡	1 所	三沢		
	13	〃	考	平 9.1	常楽寺古墳出土品	1 括	高田	奥出雲町教育委員会	
	14	町	工	昭 59.3	忠貞作 日本刀	1 振	三成		
	15	〃	考	〃	カネツキ免遺跡出土品	1 括	高田	奥出雲町教育委員会	
	16	〃	史	〃	岩屋古墳	1 基	高田		
	17	〃	天	〃	湯野神社の大けやき	1 本	亀嵩		
奥出雲町 (横田地域)	18	国	天	昭 7.7	岩屋寺の切開	1 所	中村	岩屋寺	
	19	〃	〃	昭 18.8	竹崎のカツラ	1 株	竹崎		
	20	〃	選保	昭 52.5	玉鋼製造（たたら吹き）	—	大呂	木原 明(昭 61.4 認定) 渡部勝彦(平 14.7 認定)	
	21	〃	登録	平 8.12	横田相愛教会（旧救世軍会館）	1 棟	横田		
	22	〃	〃	平 10.1	鳥上木炭銑工場角炉施設	1 構	大呂		
	23	〃	〃	平 15.3	旧八川郵便局	1 棟	下横田		
	24	〃	登有民	平 18.3	雲州そろばんの製作用具	143 点	横田		
	25	県	考	昭 37.6	銅劍	1 口	中村	横田八幡宮	
	26	〃	有民	昭 42.5	獅子頭	1 頭	中村	横田八幡宮	
	27	〃	古	昭 43.6	棟札	42 枚	中村	横田八幡宮	
	28	〃	天	昭 44.5	湯の廻キャラボク	1 株	大馬木		
	29	〃	彫	昭 48.9	木造隨身立像	2 軀	横田	伊賀多気神社	
	30	〃	書	昭 57.6	紙本墨書藤原定家筆「明月記」断簡	1 幅	大谷	(財)絲原記念館	
	31	〃	史	昭 58.6	陰地たたら跡	1 所	大谷		
	32	〃	工技	平 11.4	日本刀	—	稲原	小林貞俊 小林力夫	
	33	町	建	平 21.8	稲田神社	4 棟	稲原	稲田神社	
	34	〃	名	昭 50.4	旧卜蔵家庭園	1 所	竹崎		
	35	〃	史	昭 53.1	双子谷野鉦跡及び鉞塊	1 所	竹崎	奥出雲町	
	36	〃	〃	平 1.4	亀石高殿鉦跡	1 所	竹崎	国	

表 5-1 (2) 指定文化財

町名	番号	指定	種別	指 定 年月日	名 称	数量	所在地	所有者 保持者	備考
奥出雲町 (横田地域)	37	町	史	平 15.7	原たたら跡 (叢雲たたら)	1 所	竹崎		
	38	"	有民	昭 62.5	羽内谷鉱山鉄穴流し本場設備	1 所	竹崎	日立金属	
	39	"	工技	平 4.5	日本刀	—	稲原	小林弘嗣	
	40	"	考	平 12.4	京ヶ崎銅製経筒	1 口	竹崎		
	41	"	天	平 12.4	金言寺の大イチョウ	1 株	大馬木	金言寺	
木次町	42	県	無民	昭 37.6	榎の屋神楽	—	湯村	榎の屋神楽保持者会	
地域を 定めず	43	国	特天	昭 27.3	オオサンショウウオ	—	県下全域		
	44	"	天	昭 26.6	黒柏鷄	—	県下全域		
	45	"	"	昭 45.1	オジロワシ	—	県下全域		
	46	"	"	昭 46.5	カラスバト	—	県下全域		
	47	"	"	昭 46.6	ヒシクイ	—	県下全域		
	48	"	"	"	マガン	—	県下全域		
	49	"	"	昭 50.6	ヤマネ	—	県下全域		
	50	県	"	昭 57.6	いづもナンキン	—	県下全域		

出典：「島根県の文化財」、「島根県教育庁文化財課 HP」

凡 例		
種 別		
有形文化財	(建) 建造物 (絵) 絵画 (彫) 彫刻 (工) 工芸品 (書) 書跡 (典) 典籍	
	(古) 古文書 (考) 考古資料 (歴) 歴史資料	
無形文化財	(芸) 芸能 (工技) 工芸技術 (保持) 保持者	
民俗文化財	(有民) 有形民俗文化財 (無民) 無形民俗文化財	
記念物	(史) 史跡 (名) 名勝 (天) 天然記念物 (史名) 史跡及び名勝	
	(名天) 名勝及び天然記念物 (天名) 天然記念物及び名勝	
	(特天) 特別天然記念物	
その他	(選保) 選定保存技術 (伝建) 伝統的建造物群保存地区	
	(登録) 登録有形文化財(建物) (登民) 登録有形民俗文化財	
国・県・町指定別		
国	宝	重要文化財のうち特に価値の高いもの
重	文	重要文化財(国指定の有形文化財)
重	無	重要無形文化財(国指定の無形文化財)
重	有民	重要有形民俗文化財(国指定の有形民俗文化財)
重	無民	重要無形民俗文化財(国指定の無形民俗文化財)
国		国指定の記念物・その他
県		県指定の文化財
町		町指定の文化財

(2) 遺 跡

斐伊川水系上流域内の遺跡は表5-2に示すとおりである。

表5-2(1) 遺跡一覧表

No.	名 称	所 在 地	No.	名 称	所 在 地	No.	名 称	所 在 地
1	尾白横穴群	雲南市木次町 北原 尾白	56	石原城跡	奥出雲町 三所 里田	111	須坂B支群6号墳	奥出雲町 三成
2	下布施施の上鉦跡	雲南市木次町 平田 下布施	57	高尾城跡	奥出雲町 高尾 下高尾	112	須坂B支群7号墳	奥出雲町 三成
3	尾白I遺跡	雲南市木次町 尾白	58	佐白城跡	奥出雲町 佐白 前布施	113	須坂B支群8号墳	奥出雲町 三成
4	尾白II遺跡	雲南市木次町 尾白	59	三沢城跡	奥出雲町 三沢 鴨倉	114	須坂B支群9号墳	奥出雲町 三成
5	枯木ヶ谷鉦跡	雲南市木次町 北原	60	仁多郡衙跡	奥出雲町 郡村 本郷	115	須坂C支群10号墳	奥出雲町 三成
6	北原I遺跡	雲南市木次町 北原	61	伝和泉式部墓	奥出雲町 郡村 大内原	116	須坂C支群11号墳	奥出雲町 三成
7	下槻鉦跡	雲南市木次町 北原	62	梅木原古墳	奥出雲町 亀嵩 梅木原	117	須坂C支群12号墳	奥出雲町 三成
8	下槻I遺跡	雲南市木次町 北原	63	青龍寺跡	奥出雲町 亀嵩 谷奥	118	須坂C支群13号墳	奥出雲町 三成
9	下槻II遺跡	雲南市木次町 北原	64	亀嵩城跡	奥出雲町 亀嵩 谷奥	119	須坂C支群14号墳	奥出雲町 三成
10	下槻III遺跡	雲南市木次町 北原	65	門屋遺跡	奥出雲町 八代	120	須坂C支群15号墳	奥出雲町 三成
11	槻屋古墳群	雲南市木次町 北原	66	長福寺遺跡	奥出雲町 八代	121	上布施・一畑山古墳群	奥出雲町 佐白
12	槻屋I遺跡	雲南市木次町 北原	67	里田遺跡	奥出雲町 三所 里田	122	尾白クロビたたら跡	奥出雲町 高尾 尾白
13	槻屋II遺跡	雲南市木次町 北原	68	上分中山横穴群	奥出雲町 亀嵩 上分	123	尾白・原たたら跡	奥出雲町 高尾 尾白
14	妻の原鉦跡	雲南市木次町 北原	69	上分中山1号穴	奥出雲町 亀嵩 上分	124	久月遺跡	奥出雲町 高尾
15	下布施横穴墓群	雲南市木次町 北原	70	上分中山2号穴	奥出雲町 亀嵩 上分	125	尾白・小丸子古墳	奥出雲町 高尾
16	阿弥陀ヶ峠遺跡	雲南市木次町	71	上分中山3号穴	奥出雲町 亀嵩 上分	126	梅木原向田たたら跡	奥出雲町 亀嵩
17	大蔵鉦跡	雲南市木次町 北原 下布施	72	カネツキ免遺跡	奥出雲町 郡村 カネツキ免	127	玄武坊横穴	奥出雲町 高田
18	家ノ前鉦跡	雲南市木次町 北原 下布施	73	宮の前遺跡	奥出雲町 高田	128	長福寺古墓	奥出雲町 八代
19	里方横穴群	雲南市木次町	74	布広城跡	奥出雲町 三沢 鞍掛	129	長福寺古墳	奥出雲町 八代
20	下吉井横穴群	雲南市木次町	75	比久尾原横穴群	奥出雲町 鴨倉 比久尾原	130	矢谷古城山砦跡	奥出雲町 三成
21	岩佐古墳	雲南市木次町	76	尾白・鉄穴内遺跡	奥出雲町 高尾	131	西湯野城跡	奥出雲町 亀嵩
22	斐伊郷新造院	雲南市木次町	77	金原鉦跡	奥出雲町 八代 東部 鉦原	132	玉雲寺古墳群	奥出雲町 佐白
23	保元寺跡	雲南市木次町	78	金子松鉦跡	奥出雲町 八代 西部	133	日光寺境内遺跡	奥出雲町 上三所
24	清水平遺跡	雲南市木次町	79	カネツキ免鉦跡	奥出雲町 郡村 カネツキ免	134	高田・山神広製鉄跡	奥出雲町 高田
25	霞龍山城跡	雲南市木次町	80	水越I鉦跡	奥出雲町 上阿井 福原 下木越	135	佐白・大原山製鉄跡群	奥出雲町 佐白
26	秋葉山城跡	雲南市木次町	81	金倉鉦跡	奥出雲町 下阿井	136	六方遺跡	奥出雲町 佐白
27	王見堂遺跡	雲南市木次町	82	庄田鉦跡	奥出雲町 八代 東部	137	相子貝横穴群	奥出雲町 三所
28	鹿谷遺跡	奥出雲町 亀嵩 鹿谷	83	佐白・原鉦跡	奥出雲町 佐白	138	亀ヶ谷遺跡	奥出雲町 佐白
29	宇根遺跡	奥出雲町 宇根	84	鹿谷I鉦跡	奥出雲町 亀嵩 鹿谷	139	伊賀武社境内横穴墓	奥出雲町 佐白
30	石原遺跡	奥出雲町 三所 石原	85	鹿谷II鉦跡	奥出雲町 亀嵩 鹿谷	140	湯町八川往還	奥出雲町
31	奥山田遺跡	奥出雲町 八代 奥山田	86	宇根鉦跡	奥出雲町 三成 宇根	141	安米阿井往還	奥出雲町
32	上布施遺跡	奥出雲町 上布施	87	野土鉦跡	奥出雲町 高尾 下高尾	142	東垣内遺跡	奥出雲町 佐白
33	岩屋古墳	奥出雲町 高田 後高田	88	尾白古墳	奥出雲町 高尾	143	前田遺跡	奥出雲町 三沢
34	琴枕岩屋古墳	奥出雲町 高田 琴枕	89	尾白遺跡	奥出雲町 高尾	144	家ノ脇遺跡	奥出雲町 佐白
35	村尾政吉宅向横穴	奥出雲町 三所 石原	90	太源寺古墳	奥出雲町 高尾 下宮尾	145	家ノ前遺跡	奥出雲町 佐白
36	郡屋敷古墳	奥出雲町 三成 三成	91	金床横穴	奥出雲町 郡村 籠金床	146	寺宇根遺跡	奥出雲町 馬馳
37	すげた横穴群	奥出雲町 馬馳 すげた	92	大内原土居館跡	奥出雲町 郡村 大内原	147	御崎遺跡	奥出雲町 馬馳
38	三出平古墳	奥出雲町 八代 三出平	93	大原山古墳	奥出雲町 郡村	148	龍ノ駒遺跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒
39	堂の前古墳	奥出雲町 八代 三出平	94	三成鍛冶屋小路遺跡	奥出雲町 三成	149	蔵屋遺跡	奥出雲町 中村
40	穴親音古墳	奥出雲町 八代 三出平	95	上分原鉦跡	奥出雲町 亀嵩	150	能呂山遺跡	奥出雲町 中村 能呂
41	深谷古墳群	奥出雲町 佐白	96	亀嵩後反谷遺跡	奥出雲町 亀嵩	151	沢田宅後遺跡	奥出雲町 大馬木 亀ヶ市
42	中山遺跡	奥出雲町 佐白 本郷	97	コフケ横穴	奥出雲町 郡村 コフケ	152	五日市遺跡	奥出雲町 下横田 古市
43	上布施横穴群	奥出雲町 佐白 上布施	98	日ヤケたたら跡	奥出雲町 高田	153	横田高校グランド遺跡	奥出雲町 福原
44	どげや古墳	奥出雲町 三沢 鞍掛	99	鴨木遺跡	奥出雲町 上三所	154	竹崎井西遺跡	奥出雲町 竹崎 井西
45	比市	奥出雲町 上阿井 内谷	100	下鴨倉大峠鉦跡	奥出雲町 鴨倉	155	和田山遺跡	奥出雲町 大呂 和田
46	八頭塚横穴群	奥出雲町 三沢 堅田	101	常楽寺跡	奥出雲町 高田	156	大田山古墳群	奥出雲町 中村 大田山
47	高田廃寺跡	奥出雲町 亀嵩 高田	102	芝原遺跡	奥出雲町 高田	157	岩屋寺山横穴墓	奥出雲町 中村 馬場
48	観音寺跡	奥出雲町 亀嵩 寺奥	103	家の上古墳群	奥出雲町 三沢	158	藤ヶ瀬横穴墓群	奥出雲町 横田 六日市
49	善勝寺跡	奥出雲町 三所 乙多田	104	正覚古墳群	奥出雲町 三沢	159	大殿室篋印塔	奥出雲町 福原 稲田
50	善勝寺跡	奥出雲町 三所 石原	105	須坂遺跡	奥出雲町 三成	160	天狗松横穴群	奥出雲町 下横田 川西
51	開善寺跡	奥出雲町 三所 角木	106	須坂A支群1号墳	奥出雲町 三成	161	大堀横穴群	奥出雲町 下横田 川西
52	大源寺跡	奥出雲町 高尾 下高尾	107	須坂A支群2号墳	奥出雲町 三成	162	小万才遺跡	奥出雲町 竹崎 小万才
53	常楽寺古墳	奥出雲町 高田	108	須坂A支群3号墳	奥出雲町 三成	163	吉ヶ口古墳	奥出雲町 大谷 吉ヶ口
54	鍋坂山城跡	奥出雲町 高田	109	須坂A支群4号墳	奥出雲町 三成	164	観音原横穴群	奥出雲町 大馬木 女良木
55	須我非山城跡	奥出雲町 三所 須我非	110	須坂B支群5号墳	奥出雲町 三成	165	袋尻古墳	奥出雲町 大馬木 反保

出典：島根県遺跡データベース

表5-2(2) 遺跡一覽表

No.	名称	所在地	No.	名称	所在地	No.	名称	所在地
166	上市古墳	奥出雲町 小馬木 上市	226	広谷池窯跡	奥出雲町 中村 馬場	286	鍵免焼窯跡	奥出雲町 中村 鍵免
167	矢入古墳群	奥出雲町 小馬木 矢入	227	大曲経塚	奥出雲町 横田 大曲	287	堅田窯跡	奥出雲町 大馬木 堅田
168	矢入1号墳	奥出雲町 小馬木 矢入	228	足立宅横古墓	奥出雲町 大馬木 大畝	288	野伏遺跡	奥出雲町 大馬木 野伏
169	矢入2号墳	奥出雲町 小馬木 矢入	229	岩田山古墓群	奥出雲町 小馬木 岩田山	289	女良木古墳	奥出雲町 大馬木 女良木
170	矢入3号墳	奥出雲町 小馬木 矢入	230	都田古墓	奥出雲町 大呂 都田	290	亀井城跡	奥出雲町 大馬木 亀井
171	矢入4号墳	奥出雲町 小馬木 矢入	231	王一古墓	奥出雲町 稲原 稲田	291	陣場砦跡	奥出雲町 横田 角
172	小森坂本上横穴墓	奥出雲町 小馬木 小森	232	五反田宝篋印塔	奥出雲町 中村 五反田	292	長畑遺跡	奥出雲町 中村 長畑
173	観音寺跡	奥出雲町 竹崎 観音寺	233	瀧ノ尾鉦跡	奥出雲町 下横田 川西	293	長畑横穴墓	奥出雲町 中村 長畑
174	船通寺跡	奥出雲町 竹崎 船通山	234	かなやざこ鉦跡	奥出雲町 中村 蔵屋	294	深田鉦跡	奥出雲町 小馬木 下垣内
175	杉谷寺跡	奥出雲町 小馬木 上市	235	鬼神神社遺跡	奥出雲町 大呂 鬼神	295	無量山古墳群	奥出雲町 横田 無量山
176	竹崎城跡	奥出雲町 竹崎 城山	236	和田遺跡	奥出雲町 大呂 和田	296	小池奥横穴墓群	奥出雲町 中村 岩屋寺
177	藤ヶ瀬城跡	奥出雲町 横田 六日市	237	土居屋敷跡	奥出雲町 稲原 稲田	297	小池奥横穴墓群第1支群1号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
178	伝平家一夜城跡	奥出雲町 八川 坂根	238	竹ヶ鼻遺跡	奥出雲町 小馬木 竹ヶ鼻	298	小池奥横穴墓群第1支群2号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
179	三笠山城跡	奥出雲町 下横田 古市	239	日焼田遺跡	奥出雲町 稲原 日焼田	299	小池奥横穴墓群第1支群3号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
180	甲斐の平城跡	奥出雲町 大馬木 大峠	240	日ノ出林古墳	奥出雲町 稲原 日ノ出林	300	小池奥横穴墓群第1支群4号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
181	夕景城跡	奥出雲町 小馬木 大峠	241	白石迫古墳	奥出雲町 稲原 白石迫	301	小池奥横穴墓群第1支群5号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
182	横田川遺跡	奥出雲町 横田	242	迫谷遺跡	奥出雲町 竹崎 迫谷	302	小池奥横穴墓群第1支群6号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
183	代山遺跡	奥出雲町 大呂 薬師堂	243	平ヶ谷横穴墓	奥出雲町 大谷	303	小池奥横穴墓群第1支群7号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
184	亀石鉦跡	奥出雲町 竹崎 亀石	244	大峠I鉦跡	奥出雲町 大馬木 大峠	304	小池奥横穴墓群第1支群8号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
185	京ヶ崎経塚	奥出雲町 竹崎 京ヶ崎	245	大鉄穴遺跡	奥出雲町 小馬木 大鉄穴	305	小池奥横穴墓群第1支群9号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
186	南枝寺山遺跡	奥出雲町 中村 樋口	246	井伏宮下遺跡	奥出雲町 小馬木 野伏	306	小池奥横穴墓群第11支群9号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
187	下大仙子遺跡	奥出雲町 中村 蔵屋	247	矢入鉦跡	奥出雲町 小馬木 矢入	307	小池奥横穴墓群第11支群10号穴	奥出雲町 中村 岩屋寺
188	山伏迫遺跡	奥出雲町 中村 蔵屋	248	万歳鉦跡	奥出雲町 竹崎 万歳	308	鍵免大池鉦跡	奥出雲町 中村 岩屋寺山
189	榎ヶ谷遺跡	奥出雲町 中村 蔵屋	249	竹崎高鉦跡	奥出雲町 竹崎 日向側	309	堂ノ廻城跡	奥出雲町 下横田 土橋
190	塊谷遺跡	奥出雲町 中村 樋口	250	双子谷鉦跡	奥出雲町 竹崎 双子谷	310	山ノ神古墳群	奥出雲町 下横田 山ノ神
191	岩屋寺遺跡	奥出雲町 中村 岩屋寺	251	原鉦跡	奥出雲町 竹崎 迫谷	311	滝ノ谷横穴墓	奥出雲町 稲原 滝ノ谷尻
192	鍵免大池遺跡	奥出雲町 中村 鍵免	252	山郡I鉦跡	奥出雲町 竹崎 山郡	312	国竹遺跡	奥出雲町 横田 国竹
193	曲谷遺跡	奥出雲町 大馬木 大原	253	山郡II鉦跡	奥出雲町 竹崎 山郡	313	大呂川向古墳群	奥出雲町 大呂 川向
194	渋や遺跡	奥出雲町 大馬木 渋谷	254	山郡III鉦跡	奥出雲町 竹崎 山郡	314	柿木谷鉦跡	奥出雲町 横田 加食
195	井伏遺跡	奥出雲町 大馬木 井伏 鉦谷	255	船通山鉦跡	奥出雲町 竹崎 船通山	315	柿木谷本谷鉦跡	奥出雲町 横田 加食
196	明田奥遺跡	奥出雲町 稲原 原口	256	山根側鉦跡	奥出雲町 竹崎 山根側	316	客ノ原遺跡	奥出雲町 横田 加食
197	大殿遺跡	奥出雲町 稲原 稲田	257	靖国鉦跡	奥出雲町 大呂 山泉	317	加食家ノ上鉦跡	奥出雲町 横田 加食
198	御産湯池遺跡	奥出雲町 稲原 稲田	258	谷鉦跡	奥出雲町 大呂 山泉	318	梨ノ木谷鉦跡	奥出雲町 中村
199	伊谷遺跡	奥出雲町 下横田 古市	259	焼鉦跡	奥出雲町 大呂 山泉	319	梅ノ木金屋子鉦跡	奥出雲町 中村
200	川西園場遺跡	奥出雲町 下横田 川西	260	柴田尻I鉦跡	奥出雲町 大呂 山泉	320	加食焼鉦和田鉦跡	奥出雲町 横田 加食
201	板敷宝篋印塔	奥出雲町 小馬木 板敷	261	柴田尻II鉦跡	奥出雲町 大呂 山泉	321	桜ヶ谷鉦跡	奥出雲町 横田 加食
202	下垣内古墳	奥出雲町 小馬木 下垣内	262	福頼精煉所跡	奥出雲町 大呂 福頼	322	掛谷鉦跡	奥出雲町 横田 大曲
203	亀井古墳	奥出雲町 大馬木 女良木	263	上竜ノ駒鉦跡	奥出雲町 大呂 福頼	323	掛谷奥鉦跡	奥出雲町 横田 大曲
204	中原古墳	奥出雲町 小馬木 中原	264	七石鉦跡	奥出雲町 八川	324	堂ヶ原鉦跡	奥出雲町 横田 大曲
205	神垣内古墳群	奥出雲町 竹崎 神垣内	265	小八川鉦原鉦跡	奥出雲町 八川 小八川	325	堂ヶ原横穴墓	奥出雲町 横田 大曲
206	山郡家の上古墳	奥出雲町 竹崎 家の上	266	大谷榎原鉦跡	奥出雲町 大谷 大谷本郷	326	掛水谷山古墳群	奥出雲町 横田 大曲
207	岩屋寺古墓群	奥出雲町 中村 岩屋寺	267	杭木三叉露鉦跡	奥出雲町 大谷 杭木	327	伝三沢遠江守為忠墓	奥出雲町 横田 六日市
208	小池横穴群	奥出雲町 中村 鍵免	268	杭木鉦跡	奥出雲町 大谷 代ノ木	328	花月堂遺跡	奥出雲町 横田 角
209	小池横穴群第I支群1号穴	奥出雲町 中村 鍵免	269	杭木鉦床鉦跡	奥出雲町 大谷 杭木	329	伊賀多気神社前遺跡	奥出雲町 横田 角
210	小池横穴群第II支群1号穴	奥出雲町 中村 鍵免	270	鉄穴鉦跡	奥出雲町 大谷 雨川	330	晋叟寺宝篋印塔	奥出雲町 横田 角
211	小池横穴群第II支群2号穴	奥出雲町 中村 鍵免	271	雨川鉦床鉦跡	奥出雲町 大谷 雨川	331	馬場谷古墓	奥出雲町 中村 馬場
212	小池横穴群第II支群3号穴	奥出雲町 中村 鍵免	272	穩地北鉦跡	奥出雲町 大谷 雨川	332	半田遺跡	奥出雲町 中村 半田
213	勝田宅後古墳	奥出雲町 中村 馬場	273	鉦垣内鉦跡	奥出雲町 大谷 雨川 鉦垣内	333	大内谷古墳	奥出雲町 下横田 大内容
214	多久野塚古墳群	奥出雲町 大呂 多久野	274	大之木鉦跡	奥出雲町 大谷 雨川	334	無量山古墳群	奥出雲町 横田 無量山
215	安部宅上へ古墳群	奥出雲町 大呂 的場	275	袋尻鉦跡	奥出雲町 大馬木 反保	335	仁王門前鉦跡	奥出雲町 中村 岩屋寺
216	手場古墳	奥出雲町 稲原 原口	276	大原鉦跡	奥出雲町 大馬木 大原	336	小池遺跡	奥出雲町 中村 岩屋寺
217	杭木古墳	奥出雲町 大谷 仏前	277	大成鉦跡	奥出雲町 大馬木 堅田	337	伝横田八幡宮銅剣出土地	奥出雲町 中村 馬場
218	古屋上古墳	奥出雲町 八河 本郷	278	井伏鉦跡	奥出雲町 大馬木 野伏	338	鍵免古墓	奥出雲町 中村 鍵免
219	愛宕山下古墳	奥出雲町 横田 角	279	小峠鉦跡	奥出雲町 大馬木 小峠	339	五反田古墳群	奥出雲町 中村 五反田
220	内田宅下横穴	奥出雲町 下横田 川西	280	五ノ畑鉦跡	奥出雲町 大馬木 大峠	340	林ノイゴ鉦跡	奥出雲町 中村 樋口
221	老僧山横穴墓群	奥出雲町 下横田 川西	281	小森鍛冶屋跡	奥出雲町 小馬木 小森	341	横枕古墳群	奥出雲町 中村 樋口
222	上方林遺跡	奥出雲町 下横田 上方林	282	木屋谷I鍛冶屋跡	奥出雲町 小馬木 木屋谷	342	横枕古墓	奥出雲町 中村 樋口
223	瑠璃院跡	奥出雲町 小馬木 瑠璃院	283	下鍛冶屋跡	奥出雲町 小馬木 折渡	343	横枕遺跡	奥出雲町 中村 樋口
224	小林城跡	奥出雲町 小馬木 城山	284	上鍛冶屋跡	奥出雲町 小馬木 折渡	344	南枝寺宝篋印塔	奥出雲町 中村 樋口
225	大内谷窯跡	奥出雲町 大谷 大内容	285	原口焼窯跡	奥出雲町 稲原 原口	345	無量山横穴墓群	奥出雲町 下横田 無量山

出典：島根県遺跡データベース

表5-2(3) 遺跡一覧表

No.	名称	所在地	No.	名称	所在地	No.	名称	所在地
346	無量山1号墳丘	奥出雲町 下横田 無量山	406	追谷III鈿跡	奥出雲町 竹崎 芦原	466	島上小学校グラウンド遺跡	奥出雲町 大呂 中丁
347	無量山2号墳丘	奥出雲町 下横田 無量山	407	追谷IV鈿跡	奥出雲町 竹崎 追谷	467	山根遺跡	奥出雲町 大呂 山根
348	無量山3号墳丘	奥出雲町 下横田 無量山	408	追谷V鈿跡	奥出雲町 竹崎 追谷	468	荒神廻古墳群	奥出雲町 大呂 荒神廻
349	六坂奥池遺跡	奥出雲町 稲原 稲田	409	追谷VI鈿跡	奥出雲町 竹崎 追谷	469	小国城跡	奥出雲町 大呂 小国
350	达堂古墳	奥出雲町 稲原 原口	410	追谷VII鈿跡	奥出雲町 竹崎 追谷	470	鬼神神社上へ磐跡	奥出雲町 大呂 愛宕大仙
351	中糸遺跡	奥出雲町 稲原 原口	411	追谷VIII鈿跡	奥出雲町 竹崎 追谷	471	山根上へ磐跡	奥出雲町 大呂 中丁
352	稲原矢入原遺跡	奥出雲町 稲原 稲田	412	カガラ谷I鈿跡	奥出雲町 竹崎 カガラ谷	472	木舟磐跡	奥出雲町 大呂 木舟
353	廻田遺跡	奥出雲町 稲原 稲田	413	カガラ谷II鈿跡	奥出雲町 竹崎 カガラ谷	473	タイケ庵古墳群	奥出雲町 大呂 タイケ庵
354	山伏ヶ廻遺跡	奥出雲町 稲原 稲田	414	山根側II鈿跡	奥出雲町 竹崎 山根側	474	大呂神社古墳群	奥出雲町 大呂 宮ノ上
355	仏谷古墳群	奥出雲町 中村 蔵屋	415	大向上追鈿跡	奥出雲町 竹崎 大向追	475	下大向古墳	奥出雲町 大呂 木ノ下
356	大仙子横穴墓	奥出雲町 中村 大仙子	416	大向中追鈿跡	奥出雲町 竹崎 大向中追	476	三井野鈿跡	奥出雲町 奥三井野
357	白根垣内横穴墓	奥出雲町 小馬木 板敷	417	ヲロシ追鈿跡	奥出雲町 竹崎 ヲロシ追	477	瀧ノ谷大畝I鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
358	代山I鈿	奥出雲町 大呂 代山	418	初ノ木奥I鈿跡	奥出雲町 竹崎 初ノ木奥	478	瀧ノ谷大畝II鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
359	代山II鈿	奥出雲町 大呂 代山	419	初ノ木奥II鈿跡	奥出雲町 竹崎 初ノ木奥	479	瀧ノ谷大畝III鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
360	焼鈿谷奥鈿跡	奥出雲町 大呂 山県	420	初ノ木古墳群	奥出雲町 竹崎 中初	480	瀧ノ谷大畝IV鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
361	山県番所跡	奥出雲町 大呂 山県	421	惣善寺跡	奥出雲町 竹崎 惣善寺	481	瀧ノ谷大畝V鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
362	万歳磐跡	奥出雲町 大呂 山県	422	竹崎番所跡	奥出雲町 竹崎 番所	482	瀧ノ谷大畝VI鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
363	山奥大菅峠鈿跡	奥出雲町 大呂 山県	423	追谷湯ノ向鈿	奥出雲町 竹崎 湯ノ向	483	瀧ノ谷大畝VII鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
364	谷鈿谷I鈿跡	奥出雲町 大呂 谷鈿	424	古屋敷鈿跡	奥出雲町 竹崎 古屋敷	484	瀧ノ谷大畝VIII鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
365	谷鈿谷II鈿跡	奥出雲町 大呂 谷鈿	425	狼谷入口鈿跡	奥出雲町 竹崎 狼谷入口	485	奥鈿谷I鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
366	鍛冶屋床大鍛冶屋跡	奥出雲町 大呂 鍛冶屋床	426	須郷鈿跡	奥出雲町 竹崎 須郷鈿谷	486	奥鈿谷II鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
367	柴田尻III鈿跡	奥出雲町 大呂 柴田尻	427	山郡IV鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡	487	鈿原奥鈿物屋跡	奥出雲町 八川 小八川
368	柴田尻IV鈿跡	仁多郡 奥出雲町 大呂 柴田尻	428	山郡V鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡	488	鈿原奥鈿跡	奥出雲町 八川 小八川
369	柴田尻V鈿跡	仁多郡 奥出雲町 大呂 柴田尻	429	山郡VI鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	489	奥鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
370	宇龍谷I鈿跡	仁多郡 奥出雲町 大呂 宇龍谷	430	山郡VII鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	490	奥鈿鍛冶屋跡	奥出雲町 八川 坂根
371	宇龍谷II鈿跡	仁多郡 奥出雲町 大呂 宇龍谷	431	山郡VIII鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	491	坂根瀧ノ谷I鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
372	宇龍谷III鈿跡	仁多郡 奥出雲町 大呂 宇龍谷	432	山郡IX鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	492	坂根瀧ノ谷II鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
373	猿倉谷鈿跡	仁多郡 奥出雲町 大呂 猿倉谷	433	山郡X鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	493	丸瀬鈿跡	奥出雲町 八川 坂根
374	日向側大原I鈿跡	仁多郡 奥出雲町 竹崎 大原	434	山郡XI鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	494	家ノ西古墓	奥出雲町 八川 坂根
375	日向側大原II鈿跡	奥出雲町 竹崎 大原	435	山郡XII鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	495	坂根上鍛冶屋跡	奥出雲町 八川 坂根
376	日向側大原III鈿跡	奥出雲町 竹崎 大原尻	436	山郡XIII鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	496	坂根下鍛冶屋跡	奥出雲町 八川 坂根
377	日向側滝谷鈿跡	奥出雲町 竹崎 滝谷	437	山郡XIV鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	497	堂のワキ古墓	奥出雲町 八川 坂根
378	日向側名ナシ追鈿跡	奥出雲町 竹崎 名ナシ追	438	山郡XV鈿跡	奥出雲町 竹崎 山郡奥	498	仲間鈿跡	奥出雲町 八川 三森原
379	日向側製鉄跡	奥出雲町 竹崎 日向側	439	山郡畦原奥鈿跡	奥出雲町 竹崎 畦原奥	499	金井谷尻古墓	奥出雲町 八川 三森原
380	小方丈鈿I跡	奥出雲町 竹崎 小方蔵	440	山郡大鍛冶屋跡	奥出雲町 竹崎 山郡	500	三森原鈿原I鈿跡	奥出雲町 八川 三森原
381	羽内容砥山鉄穴流し本場	奥出雲町 竹崎 小方蔵	441	山郡團場遺跡	奥出雲町 竹崎 山郡	501	三森原鈿原II鈿跡	奥出雲町 八川 三森原
382	万歳中倉谷I鈿跡	奥出雲町 竹崎 万歳中倉谷	442	龍ノ駒道谷I鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒奥本谷右平	502	才ノ木道上鈿跡	奥出雲町 八川 三森原
383	万歳中倉谷II鈿跡	奥出雲町 竹崎 万歳中倉谷	443	龍ノ駒道谷II鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒奥本谷右平	503	才ノ木道上鍛冶屋跡	奥出雲町 八川 三森原
384	万歳中倉谷III鈿跡	奥出雲町 竹崎 万歳中倉谷	444	龍ノ駒道谷III鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒奥本谷右平	504	三森原古墓	奥出雲町 八川 三森原
385	万歳中倉谷IV鈿跡	奥出雲町 竹崎 万歳中倉谷	445	龍ノ駒道谷IV鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒奥本谷右平	505	金川奥II鈿	奥出雲町 八川 金川
386	亀石谷I鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	446	龍ノ駒道谷V鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒奥本谷右平	506	金川奥III鈿	奥出雲町 八川 金川
387	亀石谷II鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	447	龍ノ駒道谷VI鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒奥本谷右平	507	梅木ノ廻宮跡	奥出雲町 三森原 宮ツキ
388	亀石谷III鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	448	龍ノ駒草坂谷I鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒坂谷	508	三森原番所跡	奥出雲町 八川 金原
389	亀石谷IV鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	449	龍ノ駒草坂谷II鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒坂谷	509	森ノ脇古墓	奥出雲町 八川 三森原
390	亀石谷V鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	450	龍ノ駒本谷鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒	510	大八川極楽寺上古墓	奥出雲町 八川 大八川
391	亀石谷VI鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	451	龍ノ駒滝谷I鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒滝谷	511	極楽寺跡	奥出雲町 八川 極楽
392	亀石谷VII鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	452	龍ノ駒滝谷II鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒滝谷	512	奥八川砦跡	奥出雲町 大八川
393	亀石谷VIII鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	453	龍ノ駒滝谷III鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒滝谷	513	多聞寺跡	奥出雲町 八川 小八川
394	亀石谷IX鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	454	龍ノ駒滝谷IV鈿跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒滝谷	514	小八川鈿物屋跡	奥出雲町 八川 イモノキ
395	亀石谷X鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	455	龍ノ駒細谷I	奥出雲町 大呂 龍ノ駒細谷	515	仲仙道番所跡	奥出雲町 八川 仲仙道
396	亀石谷XI鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	456	龍ノ駒細谷II	奥出雲町 大呂 龍ノ駒細谷	516	田反原古墓	奥出雲町 八川 仲仙道
397	亀石谷XII鈿跡	奥出雲町 竹崎 亀石	457	龍ノ駒細谷III	奥出雲町 大呂 龍ノ駒細谷	517	高桶古墓	奥出雲町 八川 仲仙道
398	又夕転谷I鈿跡	奥出雲町 竹崎 又夕転谷	458	龍ノ駒細谷IV	奥出雲町 大呂 龍ノ駒細谷	518	下ニノ宮鈿跡	奥出雲町 八川 下ニノ宮
399	又夕転谷II鈿跡	奥出雲町 竹崎 又夕転谷	459	龍ノ駒板屋谷I	奥出雲町 大呂 龍ノ駒	519	家ノ上磐跡	奥出雲町 八川 家ノ上
400	双子谷I鈿跡	奥出雲町 竹崎 双子谷	460	龍ノ駒板屋谷II	奥出雲町 大呂 龍ノ駒	520	金川奥I鈿跡	奥出雲町 八川 金川
401	双子谷II鈿跡	奥出雲町 竹崎 双子谷	461	福頼金屋子堀鍛冶屋	奥出雲町 大呂 金屋子堀	521	叶谷鈿跡	奥出雲町 叶谷
402	双子谷III鈿跡	奥出雲町 竹崎 双子谷	462	祥福寺跡	奥出雲町 大呂 龍ノ駒	522	金川カナクノ鈿跡	奥出雲町 八川 金川
403	双子谷IV鈿跡	奥出雲町 竹崎 双子谷	463	福頼番所跡	奥出雲町 大呂 福頼	523	金川鍛冶屋跡	奥出雲町 八川 金川
404	追谷I鈿跡	奥出雲町 竹崎 船通山口	464	中丁枳木鈿跡	奥出雲町 大呂 中丁	524	金川無上堂古墓	奥出雲町 八川 金川
405	追谷II鈿跡	奥出雲町 竹崎 芦原	465	小国野鈿跡	奥出雲町 大呂 中丁	525	貝ノ谷鍛冶屋跡	奥出雲町 八川 日向側

出典：島根県遺跡データベース

表5-2(4) 遺跡一覽表

No.	名 称	所 在 地	No.	名 称	所 在 地	No.	名 称	所 在 地
526	無量寺跡	奥出雲町 八川 日向側	586	矢入石頭I鈿跡	奥出雲町 矢入 石頭	646	湯舟谷I鈿跡	奥出雲町 湯舟 鈿
527	貝ノ谷古墳	奥出雲町 八川 日向側	587	矢入石頭II鈿跡	奥出雲町 矢入 石頭	647	湯舟谷II鈿跡	奥出雲町 湯舟 鈿
528	井原古墓	奥出雲町 八川 日向側	588	矢入金屋谷I鈿跡	奥出雲町 矢入 金屋谷	648	大馬木番所跡	奥出雲町 湯舟 御番所跡
529	寺ノワキ鈿跡	奥出雲町 八川 高畦	589	矢入金屋谷II鈿跡	奥出雲町 矢入 金屋谷	649	大原奥鈿跡	奥出雲町 大原 大原奥
530	深高畦遺跡	奥出雲町 八川 高畦	590	矢入栃木鍛冶屋跡	奥出雲町 矢入 鍛冶屋	650	小馬木八幡宮砦跡	奥出雲町 小森 五十田
531	法代寺跡	奥出雲町 八川 宮谷	591	中原幸ノ峠古墳	奥出雲町 中原 幸ノ峠	651	大峠長野III鈿跡	奥出雲町 大峠 長野
532	火尻ヶ廻鈿跡	奥出雲町 八川 宮谷	592	中原鈿跡	奥出雲町 中原 道ノ上	652	大畝鈿跡	奥出雲町 上連 矢筈
533	大谷鈿床鈿跡	奥出雲町 大谷 鈿床	593	小森I鈿跡	奥出雲町 小森 小森鉄山	653	谷本坊跡	奥出雲町 壺田
534	大慶寺前道下鍛冶屋跡	奥出雲町 大谷 鍛冶屋	594	小森II鈿跡	奥出雲町 小森 小森鉄山	654	壺田鈿跡	奥出雲町 壺田
535	杭木中山横穴墓	奥出雲町 大谷 杭木	595	岩田遺跡	奥出雲町 川東 岩田奥	655	今寺跡	奥出雲町 小森 今寺
536	惣荒神下遺跡	奥出雲町 下横田 川西	596	板敷日向山鍛冶屋跡	奥出雲町 板敷 日向山	656	板敷鈿	奥出雲町 板敷 ハサラ
537	大畑遺跡	奥出雲町 下横田	597	板敷日向山鈿跡	奥出雲町 板敷 日向山	657	高城坊跡	奥出雲町 板敷 高城坊
538	才ノ峠寺跡	奥出雲町 下横田 古寺	598	板敷白根垣根内遺跡	奥出雲町 板敷 白根垣内	658	湯町八川往還	奥出雲町
539	中山会館裏手寺跡	奥出雲町 下横田 古寺	599	上市石ノ峠古墓	奥出雲町 上市 石ノ峠	659	下竜ノ駒鈿跡	奥出雲町 大呂 福頼 竜ノ駒
540	中山会館前鈿跡	奥出雲町 中山 古寺	600	大峠II鈿跡	奥出雲町 大峠 阿國馬	660	陰地鈿跡	奥出雲町 大谷 雨川
541	古市込堂I古墓	奥出雲町 古市 込堂	601	大峠III鈿跡	奥出雲町 大峠 阿國馬			
542	古市込堂II古墓	奥出雲町 古市 込堂	602	大峠IV鈿跡	奥出雲町 大峠 阿國馬			
543	土橋I鈿跡	奥出雲町 八川	603	大峠V鈿跡	奥出雲町 大峠 阿國馬			
544	若月利男宅石上鈿跡	奥出雲町 大谷 鍛冶屋	604	大峠VI鈿跡	奥出雲町 大峠			
545	雨川叶谷I鈿	奥出雲町 大谷 叶谷	605	大峠鍛冶屋跡	奥出雲町 大峠 道ノ下			
546	雨川叶谷II鈿	奥出雲町 大谷 叶谷	606	五ノ畑I鈿跡	奥出雲町 大峠 下モ尻ノ谷			
547	雨川叶谷III鈿	奥出雲町 大谷 叶谷	607	五ノ畑II鈿跡	奥出雲町 大峠 下モ尻ノ谷			
548	雨川滝ノ谷I鈿跡	奥出雲町 大谷 滝ノ谷	608	五ノ畑III鈿跡	奥出雲町 大峠 柳谷			
549	雨川滝ノ谷II鈿跡	奥出雲町 大谷 滝ノ谷	609	大峠VII鈿跡	奥出雲町 大峠 矢筈			
550	土橋II鈿跡	奥出雲町 土橋 鈿谷	610	大峠VIII鈿跡	奥出雲町 大峠			
551	雨川滝ノ谷尻鈿跡	奥出雲町 大谷 滝ノ谷	611	大峠IX鈿跡	奥出雲町 大峠 ゴマ			
552	雨川寺廻寺跡	奥出雲町 大谷 寺廻	612	大峠X鈿跡	奥出雲町 大峠 山根上			
553	雨川家ノ奥鈿跡	奥出雲町 大谷	613	大峠長野谷鉄穴流本場	奥出雲町 大峠 長野			
554	雨川石原鈿跡	奥出雲町 大谷 石原	614	大峠長野I鈿跡	奥出雲町 大峠 長野			
555	吉ヶロカナクノ廻鈿跡	奥出雲町 大谷 カナクノ廻	615	大峠長野II鈿跡	奥出雲町 大峠 長野			
556	松原墓鈿跡乃鍛冶屋跡	奥出雲町 大谷 鍛冶屋	616	小峠影地I鈿跡	奥出雲町 小峠 蔭地			
557	食膳城跡	奥出雲町 土橋	617	小峠影地II鈿跡	奥出雲町 小峠 蔭地			
558	木屋谷I鈿跡	奥出雲町 木屋谷 西小屋ノ谷	618	小峠影地III鈿跡	奥出雲町 小峠 蔭地			
559	木屋谷II鈿跡	奥出雲町 木屋谷 東小屋ノ谷	619	小峠影地IV鈿跡	奥出雲町 小峠 蔭地			
560	木屋谷III鈿跡	奥出雲町 木屋谷 青木家ノ上	620	小峠鍛冶屋跡	奥出雲町 小峠 鍛冶屋			
561	木屋谷II鍛冶屋跡	奥出雲町 木屋谷 鍛冶屋ノ上	621	渋谷才ノ峠遺跡	奥出雲町 渋谷 才ノ峠			
562	木屋谷IV鈿跡	奥出雲町 木屋谷	622	渋谷ナル林遺跡	奥出雲町 渋谷 渋谷ナル林			
563	折渡I鈿跡	奥出雲町 折渡 西折渡り	623	渋谷松ヶ谷横穴墓	奥出雲町 渋谷 松ヶ谷			
564	折渡II鈿跡	奥出雲町 折渡 東折渡り	624	大原屋敷が谷横穴墓	奥出雲町 大原 屋敷が谷			
565	折渡III鈿跡	奥出雲町 折渡 東折渡り	625	日向原狸谷遺跡	奥出雲町 日向原 狸谷			
566	折渡IV鈿跡	奥出雲町 折渡 東折渡り	626	渋谷松本遺跡	奥出雲町 渋谷 松本			
567	折渡V鈿跡	奥出雲町 折渡 中山尻	627	反保I鈿跡	奥出雲町 反保 家ノ上			
568	小馬木番所跡	奥出雲町 折渡 旧番所ノ上	628	反保家ノ上古墳	奥出雲町 反保 家ノ上			
569	木屋谷V鈿跡	奥出雲町 木屋谷 家ノ上	629	反保摺原五輪塔	奥出雲町 反保 摺原			
570	木屋谷VI鈿跡	奥出雲町 木屋谷 道ノ下	630	反保II鈿跡	奥出雲町 反保 家ノ奥			
571	木屋谷III大鍛冶屋跡	奥出雲町 木屋谷 割鉄原	631	反保III鈿跡	奥出雲町 反保 家ノ奥			
572	木屋谷五輪塔	奥出雲町 木屋谷	632	反保IV鈿跡	奥出雲町 反保 竹ノサコ			
573	下垣内鈿跡	奥出雲町 下垣内 金屋子原	633	反保V鈿跡	奥出雲町 反保 竹ノサコ			
574	矢入本谷I鈿跡	奥出雲町 矢入 東矢入	634	大勝寺跡	奥出雲町 女良木 大勝寺			
575	矢入本谷II鈿跡	奥出雲町 矢入 東矢入	635	渋谷砦跡	奥出雲町 渋谷 向殿			
576	矢入本谷III鈿跡	奥出雲町 矢入 東矢入	636	坊徳院跡	奥出雲町 渋谷 向垣内			
577	矢入本谷IV鈿跡	奥出雲町 矢入 東矢入	637	女良木I鈿跡	奥出雲町 女良木 家ノ上			
578	矢入本谷V鈿跡	奥出雲町 矢入 東矢入	638	女良木II鈿跡	奥出雲町 女良木 家ノ上			
579	矢入コエゴ谷I鈿跡	奥出雲町 矢入 西矢入	639	鉄師杠家墓	奥出雲町 湯舟 往還ノ上			
580	矢入コエゴ谷II鈿跡	奥出雲町 矢入 西矢入	640	湯舟下鍛冶屋跡	奥出雲町 湯舟 苑屋			
581	矢入コエゴ谷III鈿跡	奥出雲町 矢入 西矢入	641	湯舟中ノ谷I鈿跡	奥出雲町 湯舟 中ノ谷			
582	矢入コエゴ谷IV鈿跡	奥出雲町 矢入 西矢入	642	湯舟中ノ谷II鈿跡	奥出雲町 湯舟 中ノ谷			
583	矢入本谷VI鈿跡	奥出雲町 矢入 タカマク	643	湯舟瀧ノ谷鈿跡	奥出雲町 湯舟 瀧ノ谷			
584	矢入I鍛冶屋跡	奥出雲町 矢入 鍛冶屋原	644	湯舟鉄穴流本場	奥出雲町 湯舟 洗い桶			
585	矢入II鍛冶屋跡	奥出雲町 矢入 矢入鍛冶屋川端	645	湯舟上鍛冶屋跡	奥出雲町 湯舟 鍛冶屋			

出典：島根県遺跡データベース

(3) 歴史

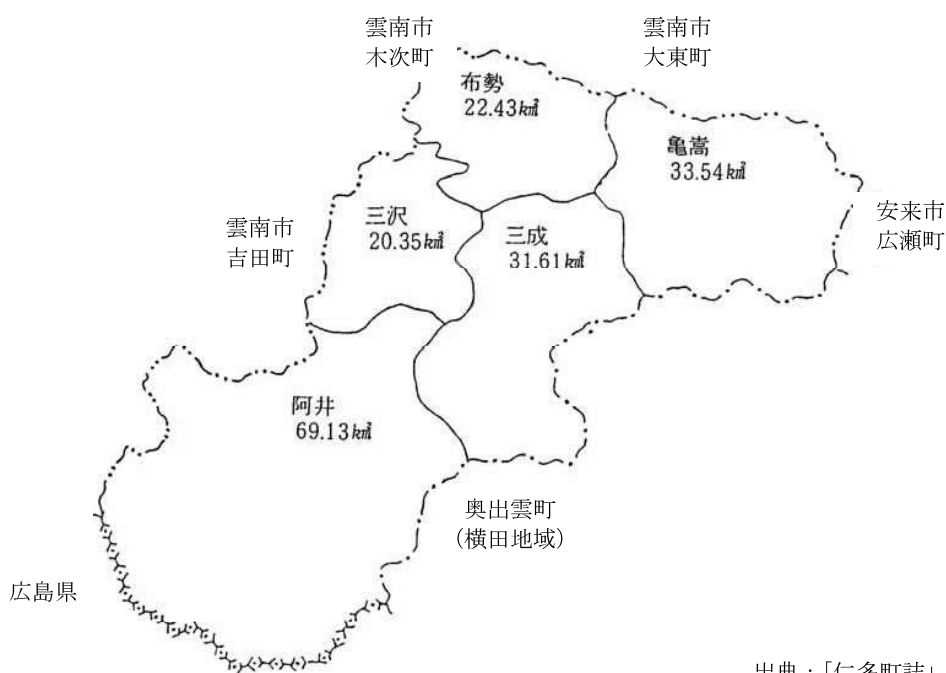
i) 奥出雲町仁多地域

奥出雲町仁多地域は、多くの遺跡から出土する土器や古墳出土の埴輪そして出雲神話の伝説からうかがい知るように、古くから農耕と山砂鉄・木炭による「たたら製鉄」などを主産業とする地域として栄えてきた。旧町名の『仁多』は、出雲風土記で大国主命おおくにぬしのみことが、「是はにたしき（豊潤な）小国なり」と述べているところから由来するが、このように遠い昔から今日に至るまで、肥沃な土地と豊かな水に恵まれ、緑あふれる自然とともに育んできた歴史を有している。

中世には清和源氏の流れをくむ三沢氏の支配を受け、やがて毛利氏の支配を経て、江戸期には松江藩領に属した。仁多郡は山間の積雪寒冷の地であり、農業を維持するために里方農家の移住を進めたり、耕作地のほかに家屋や農機具まで貸与する株小作制度という独特の小作慣行などが生み出された。寛文年間には年貢米や鉄などを斐伊川に川舟を通行させて運送するようになり、三成町に川舟府（川方）が設けられ、三成の町は駅場としての形を整備し、三成町発展の基礎がつけられた。地域を代表する産物は良質の「仁多米」であり、砂鉄を原料とする製鉄業であった。また亀高は「雲州そろばん」の発祥地であり、以後そろばん製作の特産地として発展することとなった。

明治期になるとたたら製鉄が次第に廃れ、養蚕場・製糸業が盛んになり、明治 33 年に三成に創業した櫻井製糸場は大正 11 年には郡是製糸三成工場となり、有数の大規模工場として操業した。また製鉄業衰退と関連して、製鉄用の大炭に代わって家庭燃料の木炭改良が進められ、代表的林産物となってゆき、運搬用の牛は改良によって独特の「仁多牛（黒牛）」に改められた。昭和 5 年 9 月には木次線が開通し、木炭や牛の輸送に、また地域の発展に大きな役割を果たした。

昭和 30 年 4 月に三成町、布勢村、亀高村、阿井村、三沢村の 1 町 4 村が合併して人口 15,307 人の仁多町として発足した。平成 17 年 3 月には横田町との合併により、奥出雲町が誕生した。



出典：「仁多町誌」

図 5-1 仁多地域の町村図

ii) 奥出雲町横田地域

奥出雲町横田地域は、斐伊川の源流域にあつて神話で名高い素戔鳴尊すさのおのみことの「八岐大蛇退治」がやまたのおろちあつた地とされ、稲田姫いなたの出生地としても有名である。町の東方には素戔鳴尊が降臨したと伝えられる船通山が雄大な姿を横たえ、山頂の「天叢雲劍出頭之碑」あめのむらくものつるぎが出雲神話発祥の地を象徴している。そしてブナの原生林の谷間から流れ出すせせらぎが、神代の昔を今に伝えている。近くには稲田姫ゆかりの稲田神社や産湯の池、また素戔鳴尊を祀った伊賀多氣神社など名所・旧跡も多く、古来から砂鉄を使ったたたら製鉄法に代表される鉄器文明とともに、清楚な奥出雲文化を育んできた。

天平年間に撰せられた出雲風土記に、諸郷より鉄を産出する旨が記されており、この豊かな正倉が平安時代には荘園として栄え、また戦国時代には幾多の攻防の歴史舞台となった。特に元禄年間に入ってから奥出雲の鉄生産は一段と伸長し、松江藩の殖産振興と相まって水田の開墾や木炭生産、それに和牛の導入もあつて、一大文化圏を構築した。そして、幕末頃に「雲州そろばん」うんしゅうが新しく地場産業として定着すると様々な販路を通じて、「雲州鉄」、「雲州そろばん」の名声は全国に高まった。

明治初年の横田は9カ村で、1,544世帯、人口8,075人の定住圏を成して文教施設や農業関係試験施設の導入が盛んになり、近代化の道を歩みはじめる。昭和年代に入って木次線が開通すると、木炭や木材等の資源開発が進む一方、産業構造の変革からたたら製鉄が衰退し、その後は農林業とそろばんの町として栄えてきた。

その後、昭和32年9月に鳥上村とりかみ、横田町よこた、八川村やかわ、馬木村まきが合併して斐上町が発足し、翌33年11月に横田町に町名変更した。平成17年3月には、仁多町との合併により、奥出雲町が誕生した。

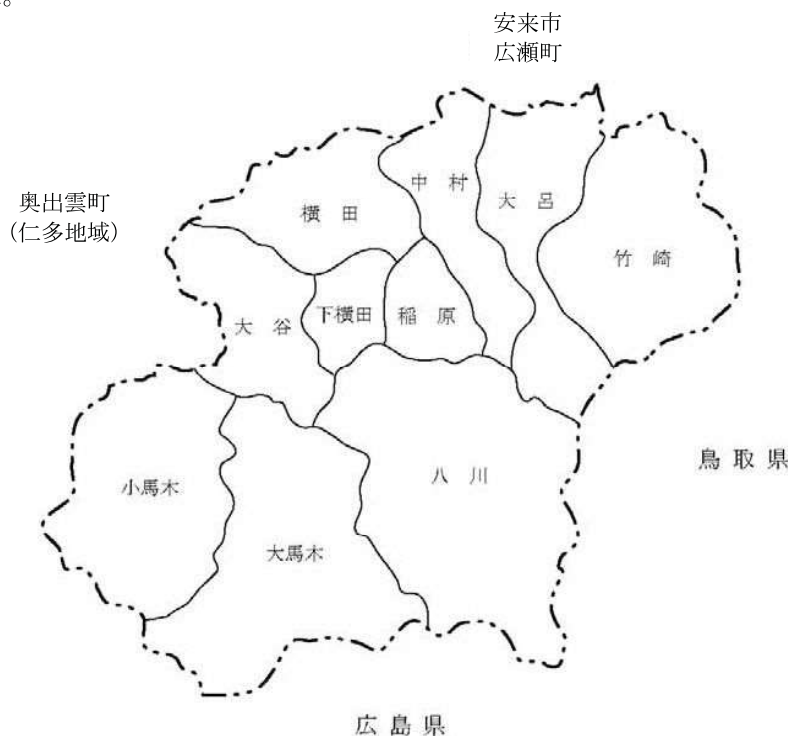


図5-2 横田地域の町村図

iii) 雲南市木次町

「出雲国風土記」には、木次郷、斐伊郷の記述があり、1,200～1,300年前にはすでに集落が形成され、斐伊郷には大原郡を統治する郡家がおかれていた。また、平が廻古墳から出土した金銅装刀子、斐伊中山古墳群など多くの遺跡、出土品がある。江戸時代には紙座が置かれ、千歯業、斐伊川の水運などにより活気をおびた。大正5年には「簸上鉄道（現JR木次線）」が開通し、雲南地域の中心として重要な地位を占めるようになった。昭和26年に旧木次町と斐伊町が合併し、同30年には日登村、仁多郡温泉村が合併して雲南木次町となり、同32年に木次町と改称した。また、同年には飯石郡三刀屋町の一部を編入している。

合併時の人口は14,000人余りであったが、その後都市部への人口流出等で過疎化が進み、昭和55年には過疎地域の指定を受け、平成7年の国勢調査では10,394人となっている。本町は、木次拠点工業団地や流通業務団地の整備を図り、雲南圏域の産業・雇用創出の中核拠点としての役割を担っている。また、昭和62年から木次駅周辺整備事業により、文化ホール、ショッピングセンター、木次大橋等を整備し、町の活性化に向けた基盤整備を進めてきた。そして、住宅団地の造成や温泉を活用した健康増進施設の整備を進める一方、『さくら咲く健康のまちづくり』をキャッチフレーズに躍進する地域を目指している。

平成16年11月に、近隣の6町村（大原郡大東町、同加茂町、同木次町、飯石郡三刀屋町、同吉田村、同掛合町）が合併して雲南市が誕生した。



図5-3 雲南市木次町の町村図

(4) 伝統芸能・風習

以下に特記すべき伝統芸能、風習を述べる。

i) 高田の「かしら打ち」と「花田植え」・・・奥出雲町高田

高田の「かしら打ち」は、明治初年高田奥で牛供養が行われた際に二人の備後の衆から高田の若い衆が教わったサゲサンの音頭と、太鼓囃子ぼやしがその始まりである。大正5年ごろに高田尻の田で、郡の博勞はくろう※杠金太郎が牛供養を行ったときに、勢ぞろいした約40頭の牛を先頭に、勇壮な「かしら打ち」の囃子で花田植えを行った。以後、大地主の田植えでは美しく着飾った早乙女達が、サゲサンと華やかな歌の競演を行い、豪華な花鞍で飾られた代かき牛が、さまざまな代道を描いて、きらびやかな農耕労働絵巻きを展開した。「かしら打ち」は、このほか三成角木、阿井内谷にも保存されている。(仁多町誌より引用)

※博勞：牛馬のよしあしを見わける人。牛馬の仲買いをする人。家畜仲買人。

ii) 三成愛宕祭り・・・奥出雲町三成

三成愛宕神社は、三成の町並みが一望できる山頂にあり、正徳元年(1711年)に度々の火難を救うため、京都愛宕神社の分社として現在地に祭ったといわれている。祭神は天照大神あまてらすおみかみである。

毎年8月23日より25日の三昼夜にわたり、郡内はもとより、近郷から多くの人手で賑わう雲南地方屈指の夏祭りである。有名な「一夜城」は『江戸時代の中頃、若者たちが地元の人々を驚かせようと、祭りの前夜、洗紙に描いた城をやぐらを組んで張りつけた』という故事にならったものである。今では、布製の不夜城が山頂に現出し、そのお城に至るつづら折れの参道にともす灯明とともに、幻想的な眺めをかもしている。



(仁多町HPより)

伝統ある祭りは、氏子の輪番で5人の当家が祭事神賑さいじかみにぎわいの一切を取り仕切る。宵祭りは大勢の子どもたちが、みこしを担いで町中を練り歩き、一気に祭りの雰囲気盛り上げる。本祭りの24日は、小中学生のマーチング・ブラスバンド行進で始まり、日没につれて夜店にはさまれた通りは、浴衣がけの人々でいっぱいになる。夜空には花火が上がり、神代神楽、炎太鼓・仁輪加にわかなど、多彩な催し物で祭りは最高潮を迎え、賑わいは夜半まで続く。後祭りも神楽や演芸ショー、老若男女が輪になっての盆踊り大会など、久々に郷里に帰省した人たちも、太鼓のリズムを聞くとその踊りの中に自然に入っていく。

祭りが終わると、奥出雲の地には早や初秋の訪れを感じる季節となる。(仁多町役場 HP より)

iii) 小森神楽・・・奥出雲町小馬木

小森神楽は、奥出雲町小馬木の小森地区に伝承されているもので、いつの頃から始められたものか明確ではないが、天明年間(1780年頃)からとも伝えられている。いずれにしても、幾多の盛衰を経て今日に伝わったものである。

(5) 伝説・神話

以下に特記すべき伝説、神話を述べる。

i) オロチ退治の神話（古事記）

高天原から追放された須佐之男命は、出雲国の「肥の川」の川上の鳥髪あしなずの地に降りた。そのとき川上から箸が流れてきたので、川上に人が住んでいるかと訪ねて行くと、そこには足名稚・手名稚の老夫婦が娘の櫛名田比売くしなたひめ（稲田姫）を中にして泣いていた。命が「お前らの泣く理由は何か」と聞くと、「この地には、眼が赤ほおづきのようにまっ赤で、頭が八つ、尾が八つあり、そのからだには苔や桧や杉の大木が生い茂り、体の大きさは八つの谷、八つの丘を越えわたるほどあり、その腹は一面に血に染まり赤くただれたように見える高志（越）の八やまたの僕遠呂智が住んでおります。わたし達には八人の娘がおりましたが、遠呂智が毎年きまったときにやって来て、年ごとに一人ずつ娘を食ってしまいました。残ったこの娘もそのときがきたので泣き悲しんでいます」と答えた。

速須佐之男命は、足名稚に「この娘を妻にできれば遠呂智を退治してやろう」と言うと、老夫婦は「娘をさしあげましょう」と承知した。そこで命は、娘を小さな湯津爪櫛ゆつづまくし（「ゆつ」はいかめしいの意）に変え、自分の髪かみの耳みみずら（びん髪）に隠し、「お前らは強い酒をつくり、垣根の八つの門ごとに八カ所のきじき棧敷さげぶねを設けてそこに一つずつの酒槽（大きな器）を置き、酒をなみなみと入れて待っておるように」と指示した。間もなく遠呂智が姿を現し、八つの酒槽に八つの首をつっ込んで酒を飲みほし、ついに酔い倒れて正体なく寝こんでしまった。

このとき須佐之男命は身につけた十拳劍とつかのつるぎを抜いて遠呂智を切りはらったので、肥の川は血の色でまっ赤になって流れた。そして遠呂智の尾を切り裂くと劍の刃がこぼれたので怪しいと思って切り分けてみると、中から都牟刈の太刀つむがりたちがあらわれた。これは不思議な靈劍であるとして天照大神あまてらすおみかみに献上した。これが天叢雲劍あめのむらくものつるぎ（草薙劍）である。

須佐之男命は遠呂智退治の後、新居の宮殿を造ろうと出雲の国々を訪ね歩き、須賀の地（大原郡大東町）を選び「われここに来て心すがすがし」と宮居を造られた。その宮居を造るとき、命は次のような歌を詠んだ。

八雲立つ出雲八重垣妻籠みに 八重垣作るその八重垣を

これはわが国和歌のはじめと言われている。命は足名稚に「汝はわが宮の首であれ」と告げ、首長とされた。それから七代目の子孫が大国主おおくにぬしのかみ神である。

ii) 鬼の舌震の伝承（風土記）

阿井の郷にいた玉日女命たまひめのみことに、和爾わに（鱔）が心を寄せ、斐伊川をさかのぼって夜ごと姿を現すようになった。これを知った命は驚いて、大岩で川をせき止めて姿を隠してしまった。しかし和爾は、それでも命を慕って川をさかのぼってきたことから、「恋山しんやま」と呼ばれ、「ワニのしたぶる」が転訛して「鬼の舌震おにのしたぶるい」になったといわれている。

6. 地名・河川名の由来

仁多町・横田町・木次町について、「風土記」にその名の由来が記載されている。地名の由来を表6-1に示す。

表6-1 地名の由来一覧

町名	地名の由来等
仁多	「仁多」という名称は、「風土記」に大穴持命 <small>おほなみのらのみこと</small> が、「この地は広くもなく狭くもなく、ほどよくまとまっており、川上はよく茂った木が枝を交わし、川下は河芝生が茂っていて豊かな『にたいい』所だと国讚 <small>くにほめ</small> めした」ことに由来している。
横田	「横田」という名称は、「風土記」に「古老の伝へて云はく、郷の中に田四段 <small>よっぺん</small> 許有り。形聊 <small>いささ</small> か長し。遂に田に依りて、故、横田と云う」とある。(古老が伝えて言うことには、郷の中に田がある。広さ四段(45.6a)ばかり。形が少し横長だ。そこでとうとうその田の形から、横田というようになった。)
木次	「木次」という名称は、「風土記」に天の下をお造りになった大神命が、おっしゃったことには、「八十神は、青垣山のうちには、いさせまい」とおっしゃって、追い払いなされたときに、ここまで追って追いつき(きすき)なされた。だから、来次 <small>きすき</small> という。

出典：「出雲国風土記」

「角川 日本地名大辞典(島根県)」 角川書店

斐伊川水系上流域の河川について、「日本全河川ルーツ大辞典 竹書房」にその名の由来が記載されている。河川名の由来を表6-2に示す。

表6-2 河川名の由来一覧

河川名	河川名の由来等
斐伊川	船通山を源に諸流を入れ、和名抄でいう斐伊郷を経て宍道湖に注ぐ。斐伊は火で鉦に関わる語。流域は鉦、鉄穴流しが盛んに行われたところで、このため下流は天井川となっている。神話の八岐大蛇退治は有名。これに因む神楽は今も盛んに舞われる。
八代川	八代から西流し斐伊川に入る。八代は風土記にいう屋代郷。八代は湿地をさすが、ここでも山間であって広い平坦な湿地。稲作を行うのに好適地であったから古くから開けたという。
三沢川	仁多郡の山間、鞍掛、三沢を経て斐伊川に注ぐ。三沢は風土記には三津と記す古くからある地名。水沢か、水霊に関わる神聖な御沢であろう。沢は山間の低湿地。中世の城跡がある。
大馬木川	広島県境の吾妻山を源に大馬木を経て馬木川に入る。馬木は平坦地をさす語。西の小馬木よりも長い山あいの平地が続くので大馬木。吾妻山の平原は広く、キャンプ場もある。
下横田川	広島県境の三国山から流れる室原川が、八川から斐伊川に合流するまでを下横田川という。下横田を経て流れることからである。
福頼川	船通山の西麓を源に福頼を経て横田川に注ぐ。この谷は鉄穴流しのあとに出来た田畑である。福は鉦を吹くからきた語。頼(より)は寄りで、鉦師が多くいたからであろうかと考えられる。
山郡川	船通山を源に北流し、山郡を経て横田川に注ぐ。山郡は山の中の邑里の意。鉄山や山仕事をす人々が崇ぶ山の神社があり、これに籠ることから山籠りが転訛したのとも考えられる。

出典：「日本全河川ルーツ大辞典」 竹書房

【文献説明】

・ いづものくにふどき
出雲国風土記

天平5年（733年）に編纂された出雲国の地誌である。風土記は、奈良時代の和銅6年（713年）の政府の命令により全国60余国から提出された地誌である。①郡郷名に好名をつける、②郡内の鉱産物や動植物名の目録の作成、③地味の良否、④山川原野の名称の由来、⑤古老の古伝承の5項目についての報告を求めた。当時の原本は失われているが、現在比較的まとまって写本の形で伝わっている風土記は、常陸、出雲、播磨、豊後、肥前の5国である。そのうちほぼ完全なものは「出雲国風土記」のみであり、その作成時期と編者が明らかでもある。現伝写本は全国に120余点あり、そのうち奥書年紀最古のものは慶長2年（1597年）の細川家元（永青文庫所蔵）であり、島根県内では、尾張徳川家の義直が寛永11年（1634年）に日御碕神社所蔵のものが最古の書写年紀をもつ。

出典：「平田市大辞典」 平田市役所

・ うんようし
雲陽誌

享保2年（1717年）成立。黒沢長尚編。本書は、出雲地方の地誌書として、重要かつ貴重な基本書である。松江藩三代藩主綱近の命で開始し、一時中断し、五代宣維の時代に完成した。編者は藩主の儒臣である。出雲10郡5451カ町村を網羅し、松江城下から始まり、順に1カ町村ごとに記されている。社寺・古跡・名所・名戦場・古城など由来や伝承を詳しく記述している。

出典：「平田市大辞典」 平田市役所

・ 古事記

歴史書。3巻。712年成立。序文によれば、天武天皇が稗田阿礼に誦習させていた帝紀・旧辞を、天武天皇の死後、元明天皇の命を受けて太安万侶が撰録したもの。

出典：「大辞林」 三省堂

・ 日本書記

漢書・後漢書などの中国正史にならって、「日本書」を目指した日本最初の勅撰の歴史書。

出典：「大辞林」 三省堂

7. 治水の概要

(1) 治水計画の概要

斐伊川水系上流域は、急流で河積が小さく、特にたたら製鉄の鉄穴流しによる流出土砂の堆積により、度々洪水被害を受けてきた。

奥出雲町三成の市街地を流れる斐伊川は、川幅が狭く蛇行が激しいために溢水による氾濫被害が多発する地域であった。このため、昭和 39 年、40 年の災害を契機として、昭和 44 年度から小規模河川改修工事に着手し、奥出雲大橋から大馬木川合流点付近までの 1.46km の区間について、掘削・築堤・護岸などを実施した。

i) 斐伊川（横田）

奥出雲町横田の市街地を流れる斐伊川においては、昭和 41 年度から 53 年度にかけて下横田川合流点付近の 1.05km 区間の河川改修を行い、掘削・築堤・護岸などを実施した。また、昭和 63 年度からは昭和 60 年災害を契機として、同町大呂の福頼橋から上流 3.56km の河川改修に着手しており、平成 22 年度末現在で下流の約 2.2km 区間について改修が完了している。

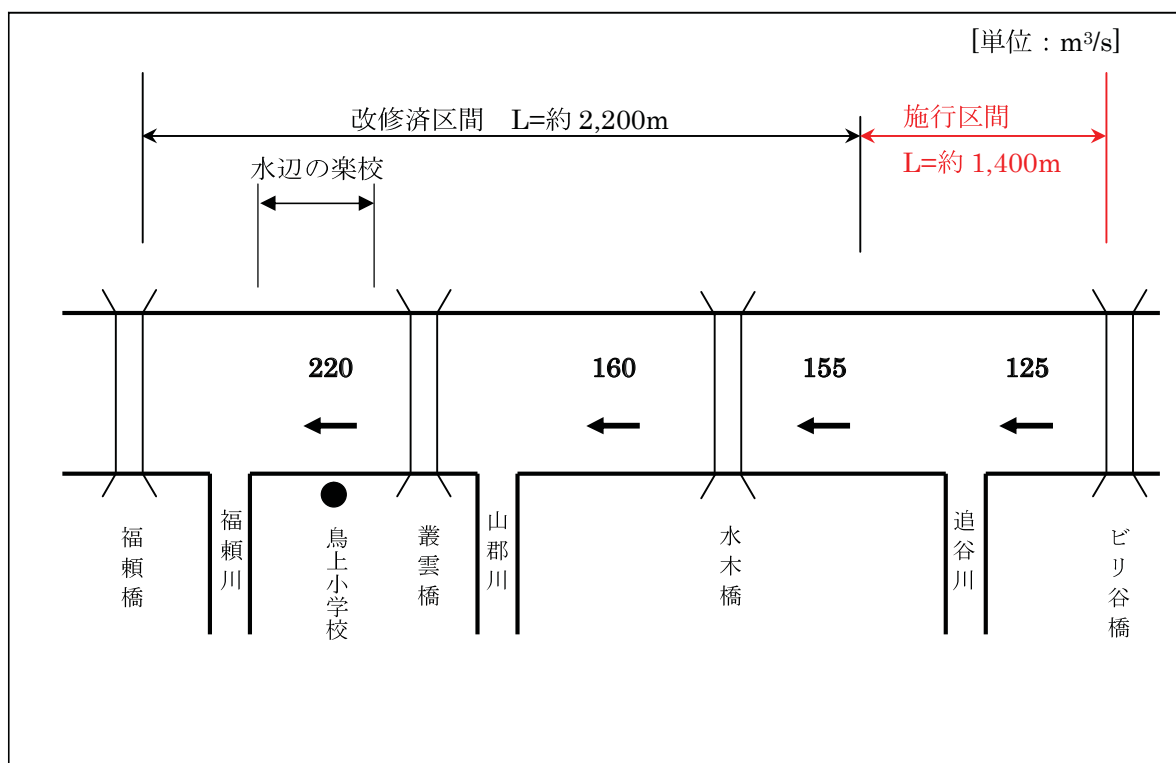


図 7 - 1 流量配分図

ii) 桐の木川

桐の木川においては、平成9年度に大木谷川合流点より上流区間について荒廃砂防事業に着手し、平成14年度に工事が完了している。斐伊川合流点から中山橋までの約450m区間は、横田地区中心部を貫流し沿川には住宅が密集しており、氾濫被害が多くなるおそれがあることから、河川改修を進めている。

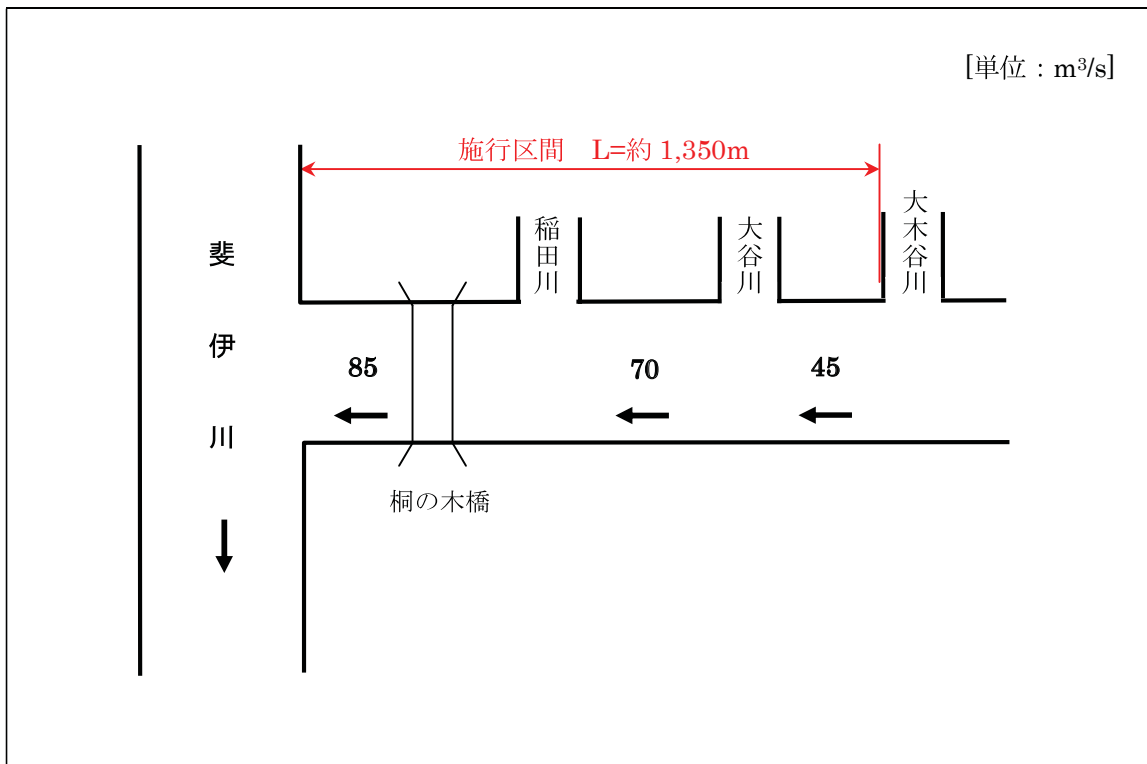


図7-2 流量配分図

(2) 被災写真

過去における被災状況を写真7-1から写真7-2に示す。



写真7-1 平成18年7月洪水被害状況（斐伊川横田）



写真7-2 平成元年8月洪水被害状況（桐の木川）

(3) 河川事業の状況

斐伊川水系上流域での主な河川改修事業を表7-1に示す。また、事業区間を図7-3に示す。

表7-1 主な河川改修事業一覧表

事業名	事業期間	番号	河川名	改修区間			計画規模	対象流量 (m ³ /s)
				下流端	上流端	延長 (m)		
河川災害関連事業	S36～S39	①	西湯野川	亀嵩川への合流点	仁多町西湯野地内	—	—	—
河川災害関連事業	S38～S40	②	三所川	仁多町大字三所地内	仁多町大字三所地内	—	—	—
河川災害関連事業	S39～S42	③	八代川	仁多町八代地内	仁多町八代地内	—	—	—
河川局部改良事業	S40～S50	④	三沢川	仁多町大字三沢地内	仁多町大字三沢地内	不明	1/30	100
河川災害関連事業	S43～S45	⑤	山の奥川	横田町大字大呂地内	横田町大字大呂地内	—	—	—
小規模河川改修事業	S41～S53	⑥	斐伊川 下横田川	横田町大字横田地内	横田町大字横田地内	840 (1,050)	1/50	910
小規模河川改修事業	S44～H14	⑦	斐伊川	仁多町大字三成地内	仁多町大字三成地内	1,460	1/50	2,000
河川災害関連事業	S47～S49	⑧	雨川川	横田町地内	横田町地内			
河川局部改良事業	S48～S58	⑨	蔵屋川	斐伊川への合流点	横田町大字蔵屋地内	840	1/50	70
河川局部改良事業	S54	⑩	下横田川	横田町大字下横田地内	横田町大字下横田地内	1,238	1/5	395
河川局部改良事業	S61	⑪	三所川	仁多町大字三所地内	仁多町大字三所地内	1,487	1/20	40
広域河川改修工事	S63～	⑫	斐伊川	横田町大字鳥上地内	横田町大字竹崎地内	3,560	1/10	275
県単独河川緊急事業	H11～H13	⑬	三沢川	斐伊川への合流点	仁多町大字三沢地内	426	1/50	122
県単河川緊急整備事業	H11～	⑭	桐の木川	斐伊川への合流点	奥出雲町稲原値内	1,350	1/10	85

注1) 網掛けは完了を表す。

出典：「河川改修計画実施要領」島根県

注2) 改修区間の地名については、事業採択時の名称を用いている。

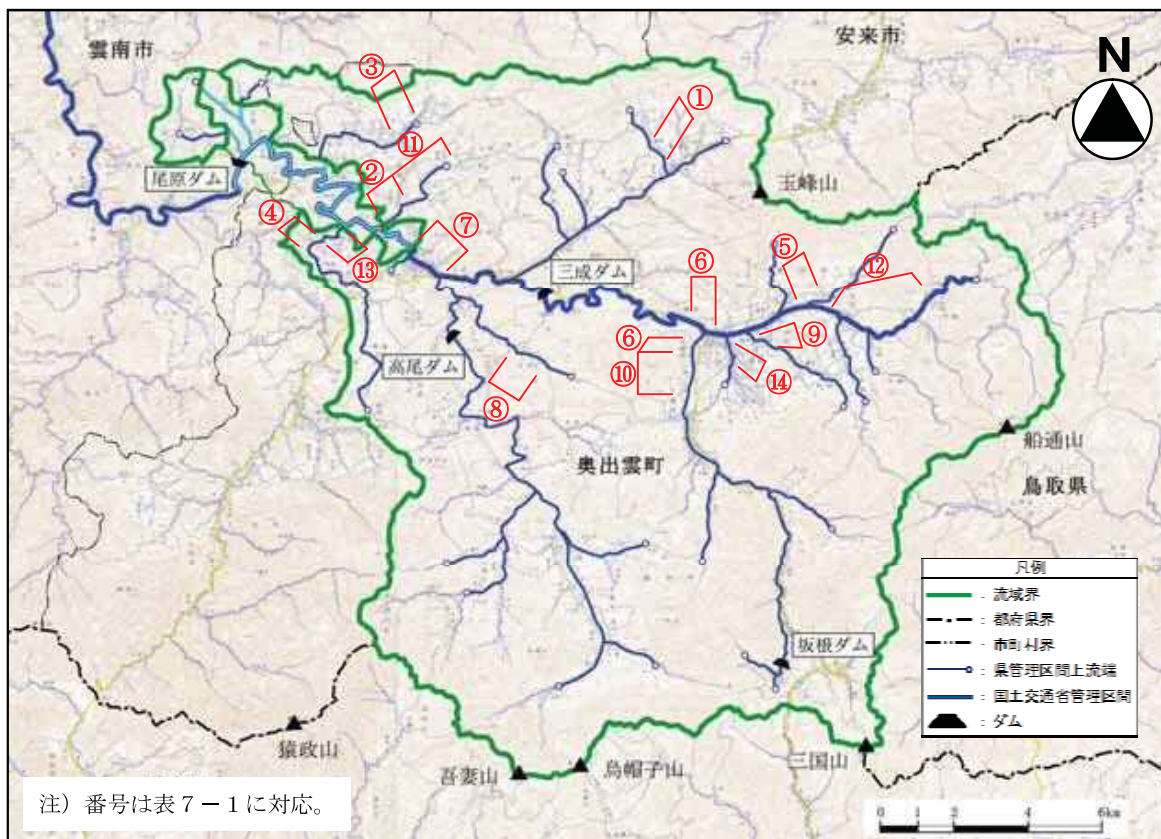


図7-3 事業区間 (S=1/200,000)

8. 利水の概要

(1) 水利利用

斐伊川水系上流域の水利利用は主に揚水機、かんがい堰により取水し、農業用水として利用されている。
斐伊川水系上流域の許可水利一覧を表8-1、慣行水利一覧を表8-2に示す。

表8-1 許可水利一覧

No	目的	河川名	用水名	水利使用者名	取水量等 (m^3/s)	備考
			取水場所			
1	水道	斐伊川	横田町簡易水道	横田町	最大：0.00172	計画給水人口 900人
			仁多郡奥出雲町中村下川原 902-5 地先			
2	農業	斐伊川	—	横田町	最大：0.0671	かんがい面積 20.4 ha
			仁多郡奥出雲町中村樋口後口 1191-1 地先			
3	農業	斐伊川	龍神堰		最大：0.0313	かんがい面積 6.0 ha
			仁多郡奥出雲町竹崎 194-2 地先 (右岸)			
4	発電	斐伊川	三成発電所	島根県(企業局)	最大：6.0	最大：3,455kw 常時：1,183kw
			仁多郡奥出雲町三成 1393-3 地先 (左岸)			
5	山砂 洗浄	斐伊川	—		最大：0.016	
			仁多郡奥出雲町横田焼鉦和田 1536-1 先			
6	農業	室原川	国営横田農地開発事業畑地	中国四国農政局	最大：0.274	かんがい面積 417.0ha
			仁多郡奥出雲町八川字室瀧 2540-1 (坂根ダム)			
7	農業	三沢川	—		最大：0.0166	
			仁多郡奥出雲町佐白			
8	農業	三沢川	—		最大：0.04	
			仁多郡奥出雲町三沢 (左岸)			
9	農業	三沢川	—		最大：0.0166	
			仁多郡奥出雲町三沢 (左岸)			
10	農業	三沢川	—		最大：0.0166	
			仁多郡奥出雲町三沢 (左岸)			
11	水道	大馬木川	仁多郡三成簡易水道	仁多町	最大：0.0093	計画給水人口 3,000人
			仁多郡奥出雲町三成 522-1 地先			
12	水道	大馬木川	高尾簡易水道	仁多町	最大：0.003	計画給水人口 500人
			仁多郡奥出雲町高尾 29-16 (右岸)			
13	発電	大馬木川	仁多発電所	雲南農業協同組合	最大：0.85	最大：246kw 常時：246kw
			仁多郡奥出雲町三成東宇根山 1417-6 先 (左岸)			
14	農業 養魚	大馬木川	—		最大：0.0093	かんがい面積 0.313 ha
			仁多郡奥出雲町高尾 178-1 地先 (左岸)			
15	農業	大馬木川	第4工区取水樋管工	横田町土地改良区	最大 0.052	かんがい面積 8.16 ha
			仁多郡奥出雲町大馬木 862-3			
16	農業	八代川	—		最大：0.00347	
			仁多郡奥出雲町佐白 (左岸)			

注1) 水利使用者名は、申請時の氏名を用いている。

注2) 網掛けは特定水利使用(直轄)を示す。

表8-2(1) 慣行水利一覧表

仁多地域

No	名称	河川名	かんがい面積(ha)	No	名称	河川名	かんがい面積(ha)
1	尾崎頭首工(北原用水)	斐伊川	12.40	51	谷山堰(谷山用水)	雨川川	1.10
2	彦地頭首工(彦地用水)	斐伊川	2.50	52	戈の峠堰	雨川川	0.30
3	(林原用水)	斐伊川	4.50	53	小屋ヶ原堰(美女原用水)	雨川川	3.50
4	(小廻用水)	斐伊川	0.80	54	谷山頭首工(谷山用水)	雨川川	0.80
5	(井出の内水路)	八代川	2.00	55	久比須堰(頭首工)(中井手用水)	亀嵩川	2.40
6	(八代下組水路)	八代川	1.20	56	カンナウチ頭首工(カンナウチ用水)	亀嵩川	1.20
7	奥滝谷頭首工(滝谷用水)	八代川	4.00	57	井出口堰(井出口用水)	亀嵩川	0.10
8	砂防堰堤(橋の奥用水)	八代川	0.07	58	法華坊頭首工	亀嵩川	0.50
9	前田頭首工	八代川	0.53	59	前田頭首工	亀嵩川	3.30
10	上布施頭首工	八代川	0.64	60	大堰頭首工	亀嵩川	3.30
11	おのた頭首工	八代川	0.30	61	大堰	亀嵩川	1.60
12	トチリ頭首工(トチリ地蔭地用水)	八代川	1.60	62	渡上頭首工(渡上用水)	亀嵩川	1.52
13	トチリ頭首工(トチリ地蔭地水利組合)	八代川	1.60	63	塩屋頭首工	亀嵩川	—
14	井出上用水	八代川	0.02	64	大内原頭首工(大内原用水)	亀嵩川	1.60
15	紙屋頭首工	八代川	0.70	65	中川原頭首工(中川原用水)	郡川	0.16
16	神田原堰(神田原用水)	三沢川	0.23	66	(寺田用水)	郡川	1.00
17	砂子田用水	三沢川	0.03	67	塩原頭首工(塩原用水)	郡川	1.70
18	ドウド頭首工(ドウド用水)	三沢川	5.00	68	馬場田頭首工(三俵免用水)	郡川	2.00
19	大原堰(大原水路)	三沢川	1.00	69	川端頭首工(川端用水)	郡川	0.10
20	中井出頭首工(中井出水路)	三沢川	2.30	70	前田用水	郡川	0.30
21	越井手頭首工(越井手用水)	三沢川	0.81	71	オトゼキ(塩原用水)	郡川	4.50
22	上内頭首工(上内水路)	三沢川	0.30	72	大畑堰(大畑用水)	郡川	0.82
23	町うしろ井戸	三沢川	—	73	井出下用水	郡川	0.89
24	下廻頭首工(下廻堰用水路)	三沢川	3.00	74	川原堀用水	郡川	0.51
25	—	三沢川	—	75	泉水門(泉用水)	郡川	1.10
26	カクンタワ堰(東用水)	三沢川	1.70	76	(鳥田水路)	西湯野川	0.60
27	町後頭首工(佐々木原用水)	三沢川	4.00	77	(山根屋車用水路)	西湯野川	1.00
28	布広頭首工	三沢川	0.03	78	川以後頭首工	西湯野川	2.80
29	カクンタワ堰(西用水)	三沢川	4.80	79	下干堰(下干用水)	西湯野川	0.50
30	堅田頭首工(東用水)	三沢川	1.50	80	星野権現頭首工(星野権現用水)	西湯野川	4.00
31	堅田頭首工(西用水)	三沢川	1.40	81	前田屋前頭首工(前田屋用水)	西湯野川	2.40
32	久月頭首工(堅田西井手水路)	三沢川	5.80	82	重栖頭首工(重栖用水)	西湯野川	1.70
33	タタラ堰(タタラ用水)	三沢川	0.80	83	土居頭首工	西湯野川	0.20
34	シゲノ谷用水	三沢川	0.20	84	小廻前頭首工(小廻用水)	西湯野川	0.70
35	広瀬田頭首工	三所川	0.50				
36	平田頭首工(平田用水)	三所川	1.00				
37	井出の口頭首工(ミナリ用水)	三所川	4.00				
38	馬場頭首工(馬場用水)	三所川	0.50				
39	寺田頭首工	三所川	0.30				
40	五丁堀頭首工	三所川	0.10				
41	上寺田頭首工	三所川	0.20				
42	大久保田頭首工	三所川	0.25				
43	久月頭首工(久月用水)	三所川	2.60				
44	下三所頭首工(平垣内用水)	三所川	1.00				
45	青木堰(青木用水)	三所川	0.50				
46	(中井出用水)	三所川	0.45				
47	(矢谷用水)	三所川	10.80				
48	車橋堰(三成地区車担地水利組合用水)	大馬木川	1.56				
49	西井出水路	大馬木川	3.20				
50	(東用水)	大馬木川	7.00				

出典：慣行水利権届出書

表 8—2 (2) 慣行水利一覧表

横 田 地 域

No	名 称	河川名	かんがい 面積(ha)	No	名 称	河川名	かんがい 面積(ha)
85	足ノ上堰	斐伊川	3.00	135	河原田頭首工	獅子谷川	2.00
86	代々山堰	斐伊川	6.00	136	ささや頭首工	獅子谷川	0.30
87	天玉原堰	斐伊川	0.35	137	山田屋頭首工	獅子谷川	0.06
88	日焼堰	斐伊川	5.00	138	西安部堰	獅子谷川	2.00
89	ピリ谷堰	斐伊川	20.00	139	やりめ堰	獅子谷川	2.25
90	反保頭首工	斐伊川	1.70	140	獅子谷頭首工	獅子谷川	30.00
91	代々山堰	斐伊川	0.03	141	渡り堰	蔵屋川	0.04
92	龍神堰	斐伊川	5.60	142	番所堰	蔵屋川	0.07
93	堂之本堰	斐伊川	15.00	143	大岩屋堰	蔵屋川	1.30
94	五反田堰	斐伊川	30.00	144	鮎岩堰	蔵屋川	2.13
95	横田中央堰	斐伊川	32.01	145	大仙子堰	蔵屋川	2.51
96	石原堰	斐伊川	0.63	146	報恩寺頭首工	蔵屋川	5.80
97	堂ヶ原堰	斐伊川	0.07	147	上手堰	蔵屋川	12.20
98	大曲堰	斐伊川	8.30	148	辨財天頭首工	蔵屋川	3.40
99	加食堰	〃(加食川)	0.94	149	藤平次頭首工	蔵屋川	2.00
100	六日市堰	斐伊川	0.50	150	落以後堰	蔵屋川	2.30
101	教ヶ崎堰	斐伊川	3.80	151	大畑堰	蔵屋川	0.05
102	神戸屋井堰	斐伊川	2.00	152	大殿堰	蔵屋川	4.30
103	三角堰	山郡川	0.25	153	源太堰	蔵屋川	6.69
104	金比羅堰	山郡川	0.23	154	吉本屋堰	蔵屋川	0.50
105	竜権堰	山郡川	12.00	155	川端堰	蔵屋川	1.50
106	三角頭首工	山郡川	0.90	156	和田堰	蔵屋川	2.50
107	金比羅頭首工	山郡川	0.50	157	中河原堰	蔵屋川	6.00
108	森脇堰	山郡川	12.10	158	大井手堰	蔵屋川	10.00
109	細田堰	山郡川	1.58	159	河原頭首工	桐ノ木川	0.50
110	下井手堰	山郡川	2.80	160	的目橋下堰	桐ノ木川	0.09
111	山郡堰	山郡川	0.77	161	桐ノ木第一水門	桐ノ木川	1.00
112	小国頭首工	山郡川	6.00	162	桐ノ木第二水門	桐ノ木川	—
113	林堰	山郡川	3.70	163	たんたん堰	小馬木川	8.70
114	小川原堰	福頼川	0.90	164	下垣内頭首工	小馬木川	1.89
115	紺屋堰	福頼川	0.40	165	櫓谷堰	小馬木川	1.50
116	中井手頭首工	福頼川	5.80	166	上市上堰	小馬木川	6.00
117	露ヶ平堰	福頼川	8.60	167	今寺頭首工	小馬木川	5.68
118	中田頭首工	福頼川	1.30	168	栗ノ木田堰	小馬木川	1.40
119	杉ヶ崎頭首工	福頼川	4.09	169	潮崎前堰	小馬木川	1.15
120	戈垣内頭首工	福頼川	5.00	170	井戸前堰	小馬木川	2.60
121	小所堰	福頼川	5.20	171	川東水路 若杉前堰	小馬木川	11.47
122	宝田堰	山の奥川	2.00	172	小森2号堰	小森川	1.40
123	藤森堰	山の奥川	0.80	173	広田屋前堰	小森川	0.50
124	柴田堰	山の奥川	1.80	174	長瀬原堰	小森川	0.26
125	本谷堰	山の奥川	1.80	175	奥田屋堰	小森川	3.20
126	陰地堰	山の奥川	5.00	176	長瀬原道の下堰	小森川	0.22
127	紺屋堰	山の奥川	0.60	177	三原頭首工	小森川	1.00
128	丸田堰	山の奥川	5.50	178	川原田頭首工	小森川	1.10
129	原堰	山の奥川	1.50	179	竹ヶ花堰	小森川	0.80
130	八反田堰	山の奥川	2.15	180	高畦堰	小森川	4.10
131	中井手堰	山の奥川	10.64	181	小森下堰	小森川	11.50
132	原堰	山の奥川	0.90	182	日向堰	小森川	4.50
133	薬師風呂頭首工	獅子谷川	3.00	183	道の下堰	小森川	0.60
134	金糞田頭首工	獅子谷川	1.20	184	金屋小堰	小森川	3.30

出典：慣行水利権届出書

表8—2(3) 慣行水利一覧表

横田地域

No	名称	河川名	かんがい面積(ha)	No	名称	河川名	かんがい面積(ha)
185	赤名頭首工	女良木川	3.00	235	砂田頭首工	下横田川	2.00
186	だんばら頭首工	女良木川	2.60	236	荒田堰	下横田川	6.00
187	川原田堰	女良木川	0.20	237	三森原堰	下横田川	1.20
188	松本堰	女良木川	2.22	238	山根田堰	下横田川	6.00
189	狸堰	女良木川	1.41	239	シックイ尻堰	下横田川	0.80
190	庄戸原堰	女良木川	3.00	240	滝ノ尾頭首工	下横田川	7.82
191	中屋前堰	女良木川	1.80	241	原堰	下横田川	22.98
192	大黒屋頭首工	女良木川	0.80	242	田波頭首工	下横田川	11.50
193	川平堰	女良木川	1.80	243	かけた堰	下横田川	19.30
194	玉屋前堰	女良木川	1.10	244	きむね堰	下横田川	4.11
195	四反田頭首工	女良木川	1.11	245	学岩堰	下横田川	5.30
196	上女良木堰	女良木川	1.40	246	七石堰	小八川川	4.50
197	吉本屋堰	女良木川	0.03	247	東ノ原堰	小八川川	0.80
198	穴田堰	女良木川	0.77	248	日向頭首工	小八川川	2.00
199	大森堰	大馬木川	8.00	249	鉦原堰	小八川川	2.03
200	山添堰	大馬木川	1.80	250	湯の廻堰	雨川川	1.60
201	堂の前堰	大馬木川	2.90	251	竹の下堰	雨川川	1.80
202	上連前堰	大馬木川	1.00	252	新田堰	雨川川	3.70
203	貝の平北堰	大馬木川	4.40	253	前屋敷堰	雨川川	1.60
204	中屋堰	大馬木川	7.43	254	朴の木尻堰	金川川	0.07
205	塚ノ原堰	大馬木川	1.10	255	高栗屋堰	金川川	0.80
206	田中宮堰	大馬木川	5.79	256	上築宅前堰	金川川	2.80
207	大森川原堰	大馬木川	0.75	257	堀ノ内上頭首工	金川川	1.60
208	袋尻堰	大馬木川	1.30	258	朴ノ木尻堰	金川川	3.00
209	柳原上井手堰	大馬木川	10.00	259	野呂尻堰	金川川	1.60
210	中井手堰	大馬木川	8.20	260	ミナシイゴ尻堰	金川川	1.00
211	大馬木川5号堰	大馬木川	7.50	261	高間原堰	金川川	0.55
212	大石原堰	大馬木川	0.60	262	一の渡堰	金川川	0.01
213	向湯滝堰	大馬木川	0.30	263	金川尻堰	金川川	4.06
214	山根田堰	大馬木川	2.50				
215	大峠堰	大馬木川	2.00				
216	大渡堰	大馬木川	7.76				
217	袋尻第2堰	大馬木川	3.00				
218	袋尻第1堰	大馬木川	2.80				
219	向田堰	小峠川	0.90				
220	落田堰	小峠川	0.20				
221	大敏堰	小峠川	3.00				
222	影土堰	小峠川	1.80				
223	澁田堰	小峠川	0.82				
224	ダム堰	小峠川	0.32				
225	小峠堰	小峠川	4.20				
226	大原屋頭首工	小峠川	0.55				
227	坂本堰	小峠川	2.30				
228	鉄山堰	小峠川	0.10				
229	山崎頭首工	小峠川	0.14				
230	落田堰	小峠川	0.21				
231	中間堰	下横田川	2.00				
232	二ノ宮堰	下横田川	8.13				
233	原田堰	下横田川	1.41				
234	金原堰	下横田川	7.50				

出典：慣行水利権届出書

(2) 主要地点の流況

斐伊川においては、三成ダムで流量観測が行われている。過去 39 年間の流況を表 8 - 3 に示す。

表 8 - 3 三成ダム流況表

年	最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量	年平均
昭和47年	132.30	6.20	4.50	3.40	2.20	1.20	6.61
昭和48年	18.30	4.60	2.30	1.50	0.80	0.60	3.21
昭和49年	48.80	4.90	3.10	2.30	1.40	1.00	4.75
昭和50年	55.60	6.50	4.50	3.60	2.50	2.10	6.08
昭和51年	37.80	6.00	4.30	3.20	1.70	1.30	5.57
昭和52年	25.00	5.10	3.20	2.20	1.60	1.30	4.58
昭和53年	19.30	5.00	2.80	1.70	1.10	0.80	3.85
昭和54年	93.30	4.60	3.40	2.60	1.50	1.10	4.51
昭和55年	65.30	6.50	4.40	3.30	2.50	2.30	5.97
昭和56年	34.20	5.90	3.70	3.10	2.00	1.60	5.49
昭和57年	58.20	4.70	3.30	2.50	1.30	1.00	4.35
昭和58年	90.40	5.50	3.80	2.80	1.50	1.00	5.81
昭和59年	42.40	3.80	2.70	1.70	1.00	1.00	4.10
昭和60年	75.30	6.50	3.30	2.50	1.60	1.50	5.98
昭和61年	42.10	4.80	3.20	2.10	1.50	1.30	4.84
昭和62年	57.00	5.40	3.90	3.00	1.70	1.30	4.91
昭和63年	23.10	5.20	3.80	2.90	2.40	2.20	4.77
平成元年	45.60	8.80	4.40	3.30	2.00	1.60	7.15
平成 2年	43.60	6.30	4.40	3.10	1.50	1.10	5.39
平成 3年	28.20	7.00	4.30	2.90	2.10	1.90	5.63
平成 4年	30.70	4.90	3.40	2.40	1.50	1.20	4.09
平成 5年	73.20	6.90	4.50	3.30	1.70	1.10	6.71
平成 6年	20.90	4.20	2.30	1.50	0.70	0.50	3.48
平成 7年	61.10	5.30	3.50	2.60	1.60	1.30	5.07
平成 8年	39.60	4.80	3.30	2.40	1.70	1.40	4.41
平成 9年	98.10	6.40	4.00	3.20	2.20	1.70	6.61
平成10年	80.00	5.50	4.20	3.00	1.90	1.70	5.31
平成11年	66.00	4.60	3.30	2.40	1.90	1.60	4.76
平成12年	45.10	4.60	3.30	2.30	1.30	1.10	4.08
平成13年	42.50	5.60	4.10	3.30	2.10	1.70	5.14
平成14年	23.90	5.30	3.50	2.10	1.40	1.30	4.25
平成15年	40.10	6.60	4.70	3.60	2.40	1.80	6.04
平成16年	65.20	6.00	4.40	3.50	1.80	1.40	5.84
平成17年	40.90	5.10	3.10	2.30	1.30	0.90	4.52
平成18年	161.30	7.70	4.40	3.20	2.30	2.00	7.26
平成19年	29.40	3.70	2.70	1.90	1.40	1.30	3.39
平成20年	30.20	4.70	3.30	2.30	1.20	1.10	4.26
平成21年	41.70	5.30	3.80	2.60	1.70	1.30	4.90
平成22年	51.57	6.23	4.35	2.84	2.10	1.90	5.41
平均	53.26	5.56	3.68	2.68	1.69	1.37	5.10
第1位	18.30	3.70	2.30	1.50	0.70	0.50	3.21
第2位	19.30	3.80	2.30	1.50	0.80	0.60	3.39
第3位	20.90	4.20	2.70	1.70	1.00	0.80	3.48

9. 環境の概要

(1) 河川の整備状況

斐伊川及びその支川では、生物の良好な生息・生育環境及び自然景観に配慮した河川改修を実施している。並びに、上流域の良好な水質を活かし、だれでも気軽に水辺に下りることができ、魚取りや水遊び、環境学習などに利用できる、地域住民にとって身近で親しめる河川空間の整備を進めている。

本川仁多大橋上流左岸側は、「水辺の楽校」プロジェクトとして、地元要望を基にスロープや親水広場等を整備している。治水上必要な強度の確保に留意しながら、石などの自然素材の利用を図っている。

整備状況を写真9-1に示す。



写真9-1 水辺の楽校（斐伊川：三成）

本川仁多大橋上流右岸側には東屋やゲートボール場を備えた親水公園を整備し、水辺に近づきやすいよう広い階段工を設けている。

整備状況を写真9-2に示す。



写真9-2 親水公園（斐伊川：三成）

本川三成新大橋下流の右岸側は、下部に連節自然石護岸を施し、上部は植生が回復するよう土構造としている。

整備状況を写真9-3に示す。



写真9-3 護岸状況（斐伊川：三成）

本川横田大橋下流には右岸側に階段状の低水護岸を設け、地元小学校の学習の場や各種イベント会場としての利用を図っている。「子どもの水辺」に登録されている。整備状況を写真9-4に示す。



写真9-4 子どもの水辺（斐伊川：横田）

本川鳥上小学校付近の落差工は、間伐材と自然石を組み合わせた全面式魚道としている。また、法面は緩勾配の植生法枠工とし、植生の回復を図っている。整備状況を写真9-5に示す。



写真9-5 河道状況（斐伊川：横田）

八代川布勢小学校付近は児童が水辺に降りて遊べるよう、法面を緩勾配にし、階段工やスロープを設置している。空石積みの護岸には覆土を施し、法面の緑化を図っている。整備状況を写真9-6に示す。



写真9-6 親水整備（八代川）

三沢川下流付近では護岸に環境保全型ブロックを用い、河床に低水路を設けている。床固工下流側には水質浄化材入りの護床ブロックを施している。水質浄化材として用いた炭は、建設現場より発生した間伐材を利用し、地域のシルバー活動に委託して製作されたものである。

整備状況を写真9-7に示す。



写真9-7 河道状況（三沢川）

大馬木川中流の水田地帯を流れる区間には多数の落差工が存在するため、魚道を設けることにより生物の上下流への移動に配慮し、河川の縦断的連続性の確保を図っている。整備状況を写真9-8に示す。



写真9-8 魚道（大馬木川）

亀嵩川上流の湯野橋付近では、緩勾配の土羽法面や自然石を用いた魚道を設置するなど、周辺景観との調和を考慮した改修を行っている。整備状況を写真9-9に示す。



写真9-9 河道状況（亀嵩川）

亀嵩川支川郡川の高田小学校付近には河川プールを整備している。
整備状況を写真9-10に示す。



写真9-10 河川プール（亀嵩川支川郡川）

山郡川の観音橋付近では水深を確保するために河道内に低水路を設けている。落差工には魚道を設置して河川の上下流の連続性の確保を図っている。
整備状況を写真9-11に示す。



写真9-11 河道状況（山郡川）

(参考：砂防整備)

斐伊川源流付近のヴィラ船通山上流は、親水性に配慮した河川空間が整備されている。泉源を利用した船通山わくわくプールや東屋、遊歩道などが設けられている。整備状況を写真9-12に示す。



写真9-12 親水整備（斐伊川：竹崎）

大馬木川支川砂田川の馬木小学校付近には水辺の楽校が整備され、児童の学習・遊びの場として利用されている。整備状況を写真9-13に示す。



写真9-13 水辺の楽校（大馬木川支川砂田川）

(2) 水質の状況

斐伊川は、上流から宍道湖流入部までの本川について、生活環境の保全に関する環境基準で河川AA 類型に指定されている。

斐伊川上流域に環境基準点は設定されていないが、奥出雲町により図9-1に示す地点において、毎年1回の水質調査が実施されている。近年の水質調査結果を表9-2及び図9-2～3に示す。

BOD について、近年はAA 類型の基準値付近を推移しており、良好な水質を維持しているといえる。

表9-1 生活環境の保全に関する環境基準（河川）

類型	基準値				
	水素イオン濃度 (pH)	溶存酸素量 (DO)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	大腸菌群数
AA	6.5 以上 8.5 以下	7.5mg/l 以上	1mg/l 以下	25mg/l 以下	50 MPN/100ml 以下
A	6.5 以上 8.5 以下	7.5mg/l 以上	2mg/l 以下	25mg/l 以下	1,000 MPN/100ml 以下
B	6.5 以上 8.5 以下	5mg/l 以上	3mg/l 以下	25mg/l 以下	5,000 MPN/100ml 以下
C	6.5 以上 8.5 以下	5mg/l 以上	5mg/l 以下	50mg/l 以下	
D	6.0 以上 8.5 以下	2mg/l 以上	8mg/l 以下	100mg/l 以下	
E	6.0 以上 8.5 以下	2mg/l 以上	10mg/l 以下	ゴミ等の浮遊が認められないこと	

出典：「公共用水域・地下水水質測定結果報告書」



図9-1 水質調査位置図

表9-2(1) 水质调查结果

類型	地点	項目	單位	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度		
A A 類型	斐伊川	三重大橋	採取日	月 / 日	11/9	10/24	11/13	10/10	10/21	10/29	10/27	10/19	10/19	10/17	10/22	10/21	-	-	
			pH	-	7.3	7.4	7.5	7.6	7.5	7.4	7.5	7.7	7.6	7.9	7.5	7.6	-	-	
			BOD	mg/l	0.9	0.9	0.6	0.6	0.7	<0.5	<0.5	0.7	0.8	0.6	1.0	1.0	-	-	
			GOD	mg/l	-	-	-	-	-	0.9	1.7	1.4	1.3	8.8	1.4	1.4	-	-	
			SS	mg/l	-	-	-	-	-	1.5	1.5	0.7	0.8	0.6	<0.5	1.0	-	-	
			DO	mg/l	10.0	10.0	11.0	9.7	10.0	9.0	9.9	9.9	11.0	11.0	9.5	9.5	-	-	
		T-N	mg/l	-	-	-	-	-	-	0.61	0.48	0.37	0.38	0.36	0.31	-	-		
		T-P	mg/l	-	-	-	-	-	-	<0.05	<0.05	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-	-		
		大腸菌群数	MPN/100ml	3,300	13,000	2,300	7,900	2,300	2,200	3,300	490	7,900	1,100	700	490	-	-		
		吉重橋	採取日	月 / 日	10/21	10/27	11/8	10/15	10/23	10/29	10/27	10/19	10/19	10/19	10/17	10/22	10/21	10/19	10/19
			pH	-	7.6	7.4	7.1	7.7	7.4	7.3	7.5	7.7	7.6	7.8	7.5	7.7	7.7	6.8	7.5
			BOD	mg/l	1.2	1.1	1.1	1.5	1.9	3.3	0.8	0.8	1.0	0.7	1.1	1.0	0.6	1.4	
			GOD	mg/l	1.8	2.1	2.4	2.1	2.7	1.6	1.6	1.4	1.6	1.5	1.3	1.5	1.7	1.8	
			SS	mg/l	0.75	25.0	-	-	-	3.3	1.5	1.0	1.5	1.2	1.4	0.9	1.4	1.7	
			DO	mg/l	9.4	9.4	10.0	8.1	9.8	9.1	10.0	9.4	11.0	10.0	10.0	9.2	11.0	10.0	
		T-N	mg/l	0.50	0.77	0.60	0.57	0.58	0.80	0.73	0.57	0.53	0.44	0.51	0.43	0.45	0.48		
		T-P	mg/l	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02		
		大腸菌群数	MPN/100ml	35,000	11,000	3,500	5,400	4,600	3,100	7,900	2,400	3,300	3,300	1,700	4,600	4,600	11,000		
	福頼橋	採取日	月 / 日	10/14	10/27	11/8	10/15	10/23	10/29	10/27	-	-	-	-	-	-	-	-	
		pH	-	7.4	7.4	7.1	7.6	7.4	7.3	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
		BOD	mg/l	0.6	0.7	0.8	1.3	2.2	<0.5	<0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
		GOD	mg/l	2.0	2.2	2.0	1.8	3.3	2.5	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
		SS	mg/l	12.0	20.0	-	-	-	8.0	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
		DO	mg/l	9.3	9.4	9.9	8.1	10.0	9.0	9.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
	T-N	mg/l	0.41	0.73	0.57	0.44	0.48	0.62	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-		
	T-P	mg/l	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-	-		
	大腸菌群数	MPN/100ml	7,000	920	1,600	1,700	7,900	3,500	4,900	-	-	-	-	-	-	-	-		
	水木橋	採取日	月 / 日	-	-	-	-	-	-	-	-	10/19	10/19	10/17	10/22	10/21	10/19	10/19	
		pH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	7.5	7.6	7.4	7.6	6.7	7.3	
		BOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.5	0.8	0.6	0.8	1.1	0.6	1.0	
		GOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2	1.6	8.9	1.5	2.0	2.1	1.9	
		SS	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	5.1	3.0	1.8	2.6	3.9	4.2	
		DO	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	9.2	10.0	10.0	9.5	9.7	11.0	10.0	
	T-N	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	0.52	0.50	0.47	0.43	0.43	0.50	0.53		
	T-P	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.05	0.02	<0.01	0.01	0.01	0.02	0.02		
	大腸菌群数	MPN/100ml	-	-	-	-	-	-	-	-	1,300	2,400	2,400	1,100	790	1,700	1,700		
	三所川 合流付近	採取日	月 / 日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10/19	10/19	
		pH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.0	7.5	
		BOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.7	1.2	
		GOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	2.8	
		SS	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1	4.2	
		DO	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	10.0	
T-N	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.67	0.58			
T-P	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	0.04			
大腸菌群数	MPN/100ml	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,300	9,400			

出典：奥出雲町資料

表9-2(2) 水質調査結果

類型	地点	項目	単位	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度			
未指定	三沢川	花見屋橋	採取日	月 / 日	11/9	10/24	11/13	10/10	10/21	10/29	10/27	10/19	10/19	10/17	10/22	10/21	10/19	10/19		
			pH	-	6.9	7.0	7.1	7.6	7.1	6.9	7.2	7.2	7.2	7.2	7.2	7.0	7.2	6.5	7.1	
			BOD	mg/l	1.2	2.3	0.6	0.6	0.9	0.5	<0.5	0.9	0.7	0.6	0.9	1.1	0.6	1.2		
			GOD	mg/l	-	-	-	-	-	1.0	2.2	1.8	1.6	2.0	1.3	2.3	2.8	1.8		
			SS	mg/l	-	-	-	-	-	0.5	0.8	1.5	0.5	1.5	1.0	2.3	1.7	1.3		
			DO	mg/l	9.6	9.8	10.0	10.0	9.7	9.0	9.4	8.9	9.4	9.9	9.7	8.9	10.0	9.4		
			T-N	mg/l	-	-	-	-	-	-	0.39	0.28	0.33	0.27	0.79	0.34	0.95	0.53		
			T-P	mg/l	-	-	-	-	-	-	0.15	0.20	0.19	0.15	0.15	0.54	0.11	0.16		
			大腸菌群数	MPN/100ml	1,300	3,300	4,600	7,900	4,900	950	11,000	17,000	3,300	1,700	790	700	9,400	1,400		
			採取日	月 / 日	10/21	10/27	11/8	10/15	10/23	10/29	10/27	10/19	10/19	10/19	10/17	10/22	10/21	10/19	10/19	
	pH	-	7.2	7.1	6.9	7.6	7.2	7.2	7.1	7.3	7.3	7.4	7.1	7.4	6.6	7.2				
	BOD	mg/l	0.7	0.7	0.9	1.4	1.3	<0.5	0.7	0.5	0.7	<0.5	0.9	0.6	<0.5	0.9				
	GOD	mg/l	1.0	1.4	1.4	1.6	1.4	0.9	0.8	1.2	1.0	0.9	1.0	1.0	1.1	1.2				
	SS	mg/l	<0.5	11.0	-	-	-	<0.5	<0.5	<0.5	0.7	<0.5	<0.5	0.5	0.5	0.8				
	DO	mg/l	9.4	9.4	9.8	8.0	9.5	9.0	9.7	9.1	10.0	10.0	9.3	9.5	11.0	10.0				
	T-N	mg/l	0.38	0.74	0.56	0.29	0.34	0.79	0.54	0.51	0.41	0.34	0.38	0.37	0.50	0.57				
	T-P	mg/l	<0.05	0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
	大腸菌群数	MPN/100ml	1,200	1,100	2,400	1,100	240	2,800	11,000	3,500	4,600	490	2,200	330	4,900	4,900				
	採取日	月 / 日	10/14	10/27	11/8	10/15	10/23	10/29	10/27	10/19	10/19	10/17	10/22	10/21	10/19	10/19				
	pH	-	7.4	7.3	7.0	7.6	7.3	7.2	7.3	7.5	7.6	7.5	7.3	7.5	6.7	7.3				
	BOD	mg/l	0.8	0.9	1.0	1.6	4.1	<0.5	0.5	<0.5	0.7	<0.5	1.1	0.8	<0.5	1.1				
	GOD	mg/l	1.0	2.2	1.6	1.9	1.7	1.2	1.6	1.5	1.5	1.8	1.4	1.5	1.7					
	SS	mg/l	<0.5	18.0	-	-	-	<0.5	<0.5	0.5	0.9	0.6	<0.5	0.7	1.2	2.3				
	DO	mg/l	9.5	9.4	9.8	8.1	8.8	8.9	9.9	9.4	11.0	11.0	9.4	9.4	11.0	10.0				
	T-N	mg/l	0.48	0.86	0.69	0.54	0.60	0.86	0.68	0.61	0.57	0.53	0.55	0.52	0.57	0.65				
	T-P	mg/l	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.01				
	大腸菌群数	MPN/100ml	2,400	1,400	3,500	2,800	17,000	2,400	7,900	2,400	1,700	1,700	2,200	4,900	1,100	3,300				
	採取日	月 / 日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10/19	10/19		
	pH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	7.4		
	BOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	1.4		
	GOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	2.0		
	SS	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.2		
	DO	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	9.9		
	T-N	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.37	0.42		
	T-P	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	0.02		
	大腸菌群数	MPN/100ml	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,300	130,000		
	採取日	月 / 日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10/19	10/19	
	pH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8	7.4	
	BOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	1.2	
	GOD	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	1.8	
SS	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	0.6		
DO	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	10.0		
T-N	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.36	0.59		
T-P	mg/l	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.01	<0.01		
大腸菌群数	MPN/100ml	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,300	790		

出典：奥出雲町資料

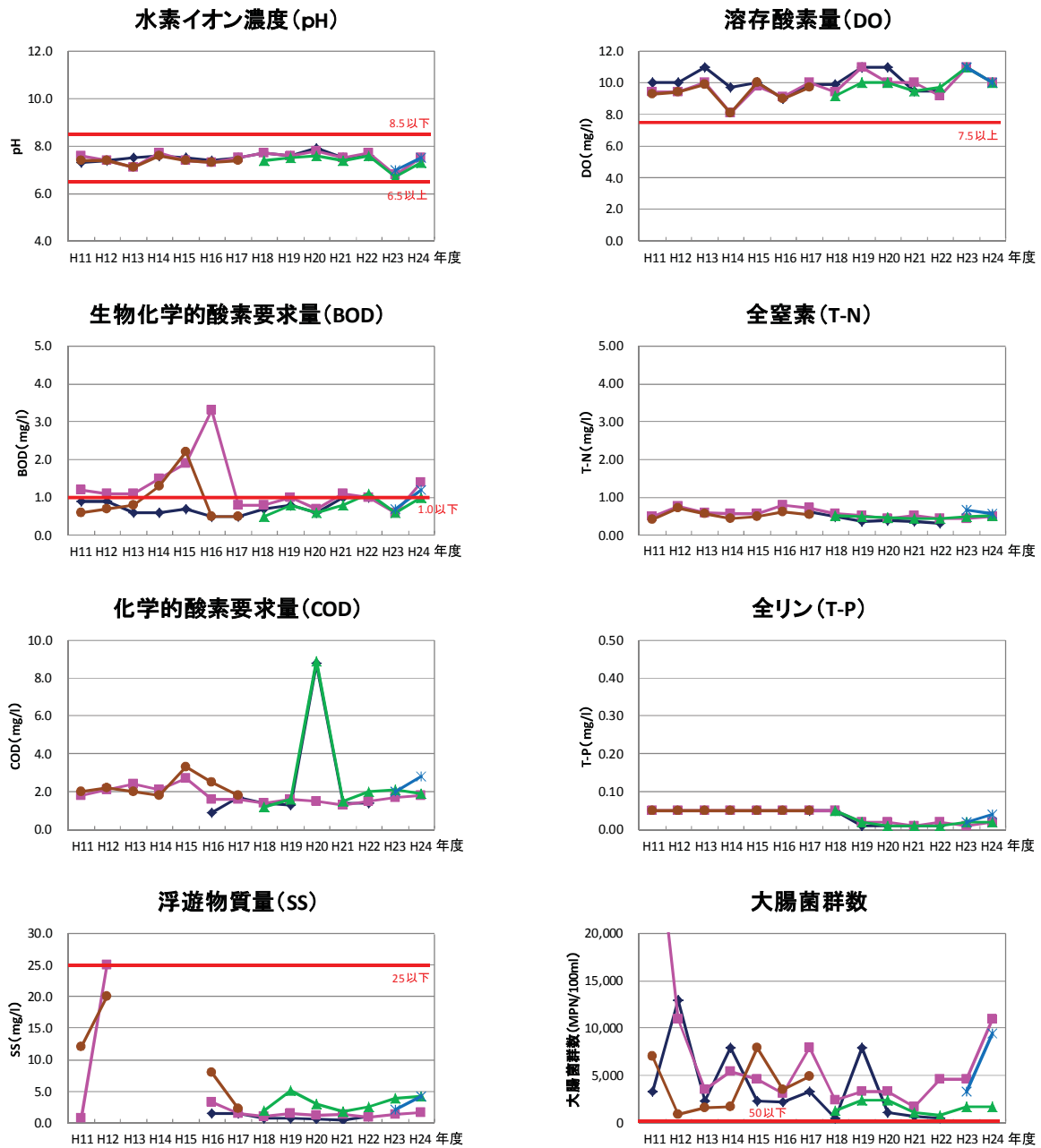


図9-2 斐伊川本川における水質の推移



【凡 例】

- ◆ 三沢川(花見屋橋)
- 大馬木川(南コスモ21企画)
- 下横田川(木舟橋)
- ▲ 八代川(下水道浄化施設)
- ✱ 郡川(大内原川)
- 環境基準

※支川は環境基準の類型未指定につき、参考値とする

図 9-3 支川における水質の推移

10. 斐伊川の河川計画の経緯

斐伊川は、かつて出雲平野を西流し神門水海を通じて大社湾に注いでいたが、寛永12年(1635)、同16年(1639)の洪水を契機に、完全に東流し宍道湖に注ぐようになった。この東流以降、宍道湖沿岸は洪水氾濫に悩まされるようになり、歴代の為政者により再三にわたり洪水事業が行われてきた。

慶応3年(1867年)頃には、斐伊川の抜本的な治水対策として、斐伊川の洪水を西の日本海へ放流する案が議論され、また、明治6年、19年、26年等相次ぐ洪水被害を契機に、明治29年には、内務省により斐伊川の洪水を神戸川へ分水することが最良策であるという調査報告が出されたが、当時の社会経済情勢から実現しなかった。

大正11年には直轄事業が開始され、明治26年の洪水に基づき、斐伊川本川の改修を行うとともに、宍道湖の水位上昇を防ぎ、舟運の便を図るために大橋川の浚渫工事等が行われた。

しかし、昭和18年、20年から40年にかけて相次いで洪水の来襲に悩まされ、特に昭和47年の豪雨では斐伊川、神戸川とも破堤寸前の危険な状態におかれ、また宍道湖の増水により、宍道湖沿岸約70km²が一週間以上浸水し、約25,000戸の家屋が被害を受けた。このため、斐伊川、神戸川の抜本的な治水計画の早期策定が強く望まれるようになり、昭和50年10月、島根県から「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画」が発表され、これに基づき、昭和51年7月に「斐伊川水系工事实施基本計画」の改定、「神戸川水系工事实施基本計画」の策定が行われた。

これらの計画は、斐伊川の基本高水のピーク流量を5,100m³/s(上島地点1/150)、神戸川の基本高水のピーク流量を3,100m³/s(馬木地点)とし、「①両河川の上流におけるダム建設」、「②中流の斐伊川放水路事業と斐伊川本川の改修」、「③下流の大橋改修と中海・宍道湖の湖岸堤整備」の3つの柱(斐伊川治水3点セット)から成り立っており、これが一体となって、上流、中流、下流の流域全体で治水機能を分担し、斐伊川・神戸川流域を洪水から守ることとしている。

この計画を踏襲して、平成14年4月には「斐伊川水系河川整備基本方針」(国)及び「神戸川水系河川整備基本方針」(島根県)が策定され、その後、平成18年8月に神戸川が斐伊川に編入されたことや中海土地改良事業の計画変更等を受け、平成21年3月に基本方針の変更が行われた。この変更に基づき、平成22年9月に「斐伊川水系河川整備計画(国管理区間)」が策定された。

斐伊川水系の基本的な治水対策を図10-1、計画高水流量配分図を図10-2に示す。



※流量は河川整備基本方針における計画高水流量

出典：「斐伊川水系河川整備計画(直轄区間)」(H22.9 策定)

図 10-1 斐伊川水系の基本的な治水対策

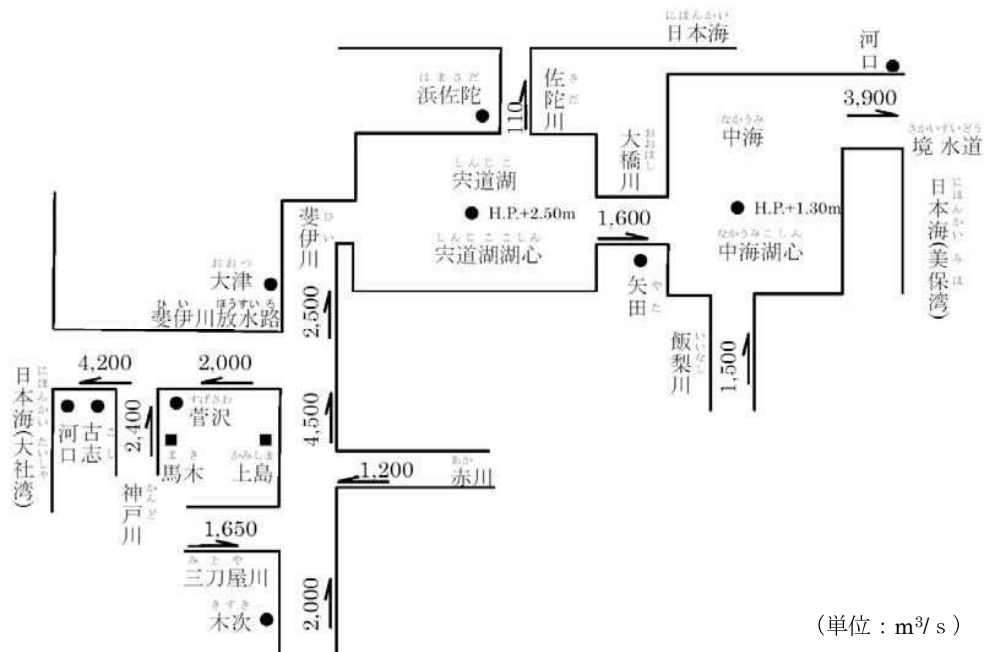


図 10-2 斐伊川・神戸川計画高水流量配分図

出典：「斐伊川水系河川整備基本方針」(H21.3 変更)

11. 「水辺の楽校」プロジェクト

「水辺の楽校」プロジェクトは、子どもたちの健やかな成長のためには、家庭や地域社会において様々な体験を重ねることが重要であるとの視点に立ち、子どもたちの遊びや自然体験、生活体験などの機会を提供することを目的に、河川が身近な自然教育の場、放課後の遊び場、短期の集団活動の場となるよう、周辺の河川を使って事業を展開していこうとするものである。

(1) 斐伊川（横田）

奥出雲町大呂の鳥上小学校付近では、

- ・子どもたちに水辺を開放し学習や自然体験の場として活用する
- ・地域住民が歴史・文化に触れられる
- ・後世に伝え、地域住民のやすらぎとふれあいの場として活用する

を目的に、「水辺の楽校」を整備した。古来より伝わる鉄穴流し場を模したカンナ流し場や水車を整備することにより、地域の歴史・産業や理科の学習に利用する。また、自然観察や安全に遊ぶことのできる場として水遊び場や砂場、観察水路、池等を整備し、水・動植物とのふれあいを図る。



写真 11-1 斐伊川(横田)水辺の楽校

(2) 斐伊川（三成）

奥出雲町三成の仁多大橋上流左岸側では、

- ・子どもたちに水辺を開放し学習や自然体験の場として活用する
- ・水に親しむことにより水循環を大切にすることを育てる
- ・地域住民の憩いの場として活用する
- ・潤いのあるまちづくりの一環とする

を目的に、「水辺の楽校」を整備した。斐伊川に親しむことのできる水辺空間の整備として、低水部の寄沙を利用した親水広場や階段教室として利用できる階段護岸、周囲を見渡せる展望広場、年少者や高齢者でも水辺に降りられるようなスロープなどを設けている。



写真 11-2 斐伊川(三成)水辺の楽校

12. 川とのふれあい活動

i) 川で遊ぼう（三成小学校）

三成小学校では、斐伊川・大馬木川合流点付近において「川で遊ぼう」と題した親水活動が行われている。低学年による「川で遊ぼう」や高学年による「いかだで遊ぼう」、「生き物を探そう・魚取り」といった活動班に分かれ、箱めがねや網を用いて生き物を探したり、児童が作成したペットボトルのいかだで川を下るなど、学校と地域が一体となったイベントが開催されている。



写真 12-1 「生き物を探そう・魚取り」



写真 12-2 「いかだで遊ぼう」

ii) 川の学習（亀嵩小学校）

亀嵩小学校では、「総合的な学習」の一環として、学校の近くを流れる亀嵩川及び谷奥川において、生き物、水温、流れの速さなどを調べる「川の学習」を実施している。水生生物による水質調査も毎年行われている。

iii) アユのつかみ取り（おろちの火祭り）

奥出雲町横田では、夏を彩る「おろちの火祭り」の協賛事業として、斐伊川河川敷でのアユのつかみ取り大会が開催されている。このアユつかみ取りは、親子のふれあいと自然の大切さを学ぶことを目的に、横田幼稚園・小学校の親子、老人会、婦人会、一般人などの参加により毎年行われている。

本書に掲載した下表の地図は、国土地理院の地図を複製したものである。

図面一覧表

ページ	図番	タイトル
付・5	図2-1	地勢図(S=1/200,000)
付・34	図7-3	事業区間(S=1/200,000)
付・47	図9-1	水質調査位置図